

GLOBAL EDGE

【グローバルエッジ】

SOCIAL COMMUNITY MAGAZINE
2024 WINTER NO. 76

GLOBAL EDGE

NO.76 2024 WINTER



新春
対談

エネルギーの担い手は
人新世に何を成すべきか

特集

境界を越えて新たな可能性を拓く

特別座談会

魅力いっぱいの只見町

HOME
of J-POWER

福岡県北九州市・山口県下関市



新春

対談



エネルギーの担い手は 人新世に 何を成すべきか

J-POWER社長

経済思想家
東京大学大学院総合文化研究科准教授

菅野 等

斎藤 幸平

『^{ひとしんせい}人新世の「資本論」』。

気鋭の経済思想家が、環境問題をマルクスの『資本論』に読み込むことで
探り当てた今日的課題とその解決に向けたヒントの数々は、
目の前にある気候変動に危機感を募らせ、若者世代を中心に共感を呼び、
幅広い世代に議論の糸口を投げかけてもいる。
この警世の書から「コモン」の考え方を学び取り、
経営判断の道標になり得るとも考える経営者との対談は熱を帯びた――。

晩年のマルクスが記した 自然科学のノートから

菅野 私は斎藤さんが書かれた『人新世の「資本論」』を発刊直後に拝読しました。新聞広告で概要を知り、今の日本にマルクス研究に携わる気鋭の学者がいて、我々が直面する社会課題への提言をされていることに感銘を受けた次第です。

斎藤 ありがとうございます。

菅野 率直な読後感として、特に今日の気候変動問題に関する分析と、その抜本的対策の急を要することを訴える第1章から第3章までは、本当にその通りであると思いました。

斎藤 本の中で批判の矛先を向けたエネルギー業界の方にも、自分の思いや考えが届いたなら光栄です。

菅野 実は、私も大学では哲学を専攻し、1980年代前半に一世を風靡した浅田彰氏などニューアカデミズムの旗手たちに傾倒したものです。でも『資本論』は第1章だけ読んで挫折したので、親子ほど歳の離れた斎藤さんが、なぜマルクス研究に行き着かれたのか気になりました。

斎藤 私もいきなりマルクスに向かったわけではなく、高校時代は理系でし

マに言及していたのですか。

斎藤 そこまで明示的ではありません。ラッキーだったのは、ドイツ留学中に、マルクスの新しい全集発刊のプロジェクトの編集作業に誘われたことです。偶然、割り当ての範囲が、晩年のマルクスが記した自然科学に関するノート類だったのです。そこには農地から養分を取り過ぎると土壌が疲弊するとか、石炭の過剰採掘や森林伐採が引き起こす弊害といった話を書いてありました。

菅野 そのノートと出合わなければ、今日、マルクスと気候変動が出合うこともなかったかもしれませんね。

斎藤 そんな偶然もあって、この研究を進展させれば現代へと連なる技術論とか環境問題や持続可能性にもつながるのではと考え、結局、それが博士論文のテーマになり、『人新世の「資本論」』にもつながったわけです。

地球市民の一人として 未来への責任と向き合う

菅野 著書が世に広まるにつれて「人新世」という言葉も広く知られるようになったと思います。18世紀の産業革命から現代までを含めた地質年代のことですが、気候変動問題の観点からは「人類の経済活動が地球を破壊しかね



Saito Kohei
新春対談
Kanno Hitoshi



斎藤 幸平（さいとう・こうへい）

1987年生まれ。2015年、ベルリン・フンボルト大学哲学科博士課程修了。博士（哲学）。専門は経済思想、社会思想。2017年に著した『Karl Marx's Ecosocialism: Capital, Nature, and the Unfinished Critique of Political Economy』（邦訳『大洪水の前に〜マルクスと惑星の物質代謝』）で、マルクス研究界最高峰の「ドイッチャー記念賞」を日本人初、かつ歴代最年少で受賞、同著は世界5カ国で翻訳刊行されている。2020年に上梓した『人新世の「資本論」』（集英社新書）は50万部を越すベストセラーとなり「新書大賞」を受賞。主な著書に『ぼくはウーバーで捻挫し、山でシカと闘い、水俣で泣いた』（2022年、KADOKAWA）、『ゼロからの「資本論」』（2023年、NHK出版新書）など。共著に『コモンの「自治」論』（2023年、集英社）などがある。

た。でも、高一の時にイラク戦争が起き、中東情勢やパレスチナ問題に興味を持って、エドワード・サイードという思想家に惹かれました。その流れで歴史や思想、政治に関心が傾く中で日本を見つめ直すと、当時すでに社会的格差や貧困の問題が露わになっていた。戦争や格差を生み出す資本主義というシステムの矛盾をもっと勉強したいと思うようになっていきました。

菅野 大学は在籍わずか3カ月で退学し、米国に留学されたのですね。マルクスの祖国ドイツではなく、まずは米国へ。

斎藤 2008年のリーマンショックを挟み、米国社会は貧困と格差が顕著で、それを直に見聞しながら、資本主義は本当に人々を豊かにするのかという問題意識が生まれ、マルクスで卒論を書きました。その後、やはりマルクス研究は本国でと思い、ドイツへ渡ったのが2010年の秋。そうしたら翌年すぐに東日本大震災が起き、福島事故を目の当たりにして東京と地方の格差、豊かさとのリスクの相反や背理といった問題に行き当たったわけです。

菅野 マルクスは『資本論』の中で、人間社会と自然環境の相関とか、科学技術とエコロジーの相剋といったテー

ない環境危機の時代」という解釈になるのですね。

斎藤 この300年近くで地球の人口が7億人から80億人にまで増えたのは、産業技術や経済システムの革新などが功を奏したのは確かです。一方、発展や成長の陰で様々な災厄も積み重なっていました。特に第二次世界大戦後の「大加速の70年」に、その功と災が逆転して、人類をのっぴきならない境地に追い詰めている。その典型的な現れが環境破壊であり、原子力発電所の事故による放射性物質の拡散や温室効果ガスの排出による気候変動の問題として可視化しているわけです。

菅野 フランスの経済学者トマ・ピケティは2013年に『21世紀の資本』を著して、やはり世界的なベストセラーになりました。彼の主張は、今ある経済的不平等は資本主義を部分的につくり直すことで解決できるというものですが、斎藤さんは資本主義の制限なき利潤追求をやめない限り豊かな未来社会はないとして、ある種の対をなす主張のような印象も受けます。

斎藤 行き過ぎた資本主義は市民生活に幸福をもたらさないというのが私の考えです。長時間労働や終わりのなき競争は人々を不幸にするだけでなく、飽

くなき利潤追求は気候変動も新型コロナのパンデミックといった「人新世」的現象をもたらし、私たちの暮らしを脅かします。「今さらマルクスを召喚した理由は」とよく聞かれますけど、環境問題を『資本論』に読み込むことで見えてきた今日的課題とその解決のヒントを、この本を通じて発信したかったのです。

菅野 そういう警世の書が売れて、50万部を突破したこと自体、斎藤さんのメッセージが人々に届いて、議論の糸口になっている証左でしょう。

斎藤 その数字には自分でも驚いています。ただ私自身を含むミレニアル世代や、もう一段下のZ世代と呼ばれる若者たちが今、目の前にある気候変動に危機感を募らせているのは明白です。このまま環境負荷の大きい暮らしを続けてはいけないうと自重したり、自分たち世代の行動が何百年、何千年先の人類の帰趨を左右しかねないと自戒したりする。つまり、未来に対して自ら責任を負おうとする若者層に、私の声が届きやすいのかもしれないですね。

菅野 未来への責任を率先して負うべきは、むしろ我々の世代でしょう。還暦を過ぎた私などは、どういう社会を目指し、どんな状態の地球を次の世代

市場メカニズムによってコモンの提供価格が決められたら、市民が気付かぬうちに格差や不平等が生じ、買えない人も出てきてしまいます。

菅野 近頃、公立図書館の運営が民間委託されたとか、公共施設の跡地が宅地開発されたりするケースが珍しくなくなっている気がします。

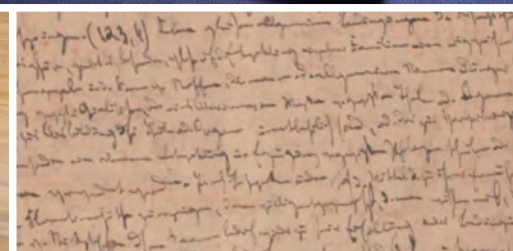
斎藤 いわゆる新自由主義のトレンドに乗って「コモンの商品化」が促されたわけです。これも行き過ぎた資本主義がもたらす災厄の一形態だと思えますが、勢いづく今のトレンドを放置していいものか、社会全体で考えるべき時が来ています。

菅野 そのコモンの考え方に、インフラを担う企業経営者の一人として私は深い共感を覚えます。当社の仕事に話を引き寄せるのは憚られますが。

斎藤 いえいえ、ぜひお聞かせいただきたいポイントです。

菅野 我々は電気事業者として、必要とされる電力を不断に供給するという使命を果たしつつ、そこから派生する様々な社会課題の解決・改善にも取り組んでいるのですが、何かにつけて経営判断を迫られては選択に迷い、矛盾に悩むこともしばしばです。そうした折々に、コモンに立ち戻る必要を感じ

Saito Kohei
新春対談
Kanno Hitoshi



右：2023年9月に長野県須坂市で催された第25回「信州岩波講座」で講演する斎藤幸平さん。左上：大学時代の斎藤さん。理系志向から一転して哲学畑へ歩を進めた。下中央：晩年のマルクスを研究する中で巡り合ったというマルクス直筆の書簡。下左：ドイツ留学中に斎藤さんが編集に携わった新版のマルクス全集（以上4点の写真：ご本人提供）。

上中：2020年9月刊行の「人新世の『資本論』」（左）と近刊の共著『コモンの「自治」論』（いずれも集英社）。

に手渡せるのか責を問われています。

斎藤 それは世代を問わず、この地球に住む「市民」なら、未来への責任と向き合わねばならないはずです。しかし、過去数十年にわたって、行き過ぎた資本主義の下、過剰な生産と消費を繰り返し、必要以上のエネルギーを費やしてきた。だから今からは、過剰な生産と消費を減らし、もっと市民目線で電力、水道、食料などの問題にも関与していくことが大切です。いわば市民が「自治」を取り戻せるような、真に豊かな未来社会を思い描きたいのです。

「コモン」の考え方を 経営判断の一つの道標に

菅野 今のお話にあった市民とか自治といった概念を、斎藤さんは「コモン」という括りで説明されていますね。特定の個人や企業に占有されない「共有財・公共財」として、例えば水、電気、道路、教育、医療・介護などがコモンに該当すると……。

斎藤 誰もがが必要とする社会インフラ、もしくは自然環境なども含めて、公共性の高いものを利潤追求の道具にしてはならない。1970年代に経済学者の宇沢弘文が提起した「社会的共通資本」に相通ずる概念ですけども、仮に

ているのです。

斎藤 迷いや矛盾とは、例えばどんな局面を指しますか。

菅野 斎藤さんがご存じかどうか、Jパワーの出自は1952年、戦後復興期の電力不足を補うために設立された国の特殊法人で、2004年に完全民営化された公共性が高い企業です。しかし、民営化後は市場経済の渦中に身を置いて、例えば設備投資のために資金調達が必要となれば、PBR（株価値純資産倍率）とかROE（自己資本利益率）といった市場メカニズムの洗礼を受ける立場になりました。いわば、コモンと市場経済の狭間に立つ企業です。

斎藤 公共性の高い事業は本来、市場メカニズムと反りが合わず、場合によっては儲けを度外視し、国が支えるべき——コモンのであるとは、そういうことです。

菅野 仮に短期的な利潤に結びつきにくい環境対策などに投資するとして、社会課題への貢献に熱心であるという世間の評価と、その投資回収を期待する市場や株主などの評価は、互いに相容れない場合が多いわけです。

斎藤 よく分かります。コモンに関して私が強調しているのは、投資を含めて様々な意思決定をする際に、市場を

判断基準の真ん中に置いたり、株主のような利害関係者が深く介在したりすれば、コモンが捻じ曲げられてしまいかねないという筋道なのです。

気候変動を優先課題に 脱炭素トランジションへ

菅野 お話を聞くほどに、コモンの考え方を企業経営にどう取り込むか、さらにはコモンの発想を生かしてどうビジネスを展開していくのかに、我々の存在意義を示せる気がしてきました。

斎藤 昨今、エネルギー価格の高騰を受けてドイツやフランスの電力会社が再国営化に向かうなど、戦時経済とも呼べる状況で、非常時には市場原理主義は役に立たないという現実を私たちは目撃しています。しかも、そんな一時しのぎは通じないのが気候変動で、異常気象がもたらす水不足や食料危機がインフレを呼び、やがて資源や領土をめぐる紛争をも招きかねません。

菅野 つまり、人新世が環境危機の時代であるがゆえに、気候変動を優先課題として経済も政治も取り組むべきという論点に回帰するのですね。

斎藤 それには何より脱炭素化を推進することが大切です。これは一企業レベルで済ませる話ではなく、国全体と

に足りる電源を生み出す余地はあると思います。

斎藤 そういった住民参加による再エネ系電源が各地に出現すれば、地域分散型の「コモンとしての電力」がこの国に定着するかもしれませんね。

菅野 現に、当社の事業を通じてご縁のある自治体から、地域活性につながる小規模な案件に参画できないかといった打診もあります。再エネ系の開発で地域とどう連携し、共生を図っていくかが実務的課題になっています。

斎藤 気候変動対策というと、日本人の多くは国が何とかすると思っただけで動こうとしません。それが状況を悪化させているので、今後、自治体を巻き込みながら自分たちが直に関われる市民電力をつくっていくのが、コモンのあり方としては理想形だと思います。

コモンの観点に立ち 地域共生を自分ごと

菅野 斎藤さんの鳴らす警鐘は若者世代によく響くと言いましたが、我々の会社組織にも若い世代がたくさんいて、彼らの多くは働くことを通じて、自社の利潤や自らの報酬とは別の次元で、社会的課題に立ち向かう姿勢を強く感じます。



写真右上：大規模水力の佐久間ダム・発電所は1956年に運転開始。写真右下：2020年に運転開始のせたな大里ウインドファーム。写真右中：鬼首地熱発電所。2023年、リブレース工事に合わせてタービン発電機に地元の名産「鳴子こけし」をあしらった。写真左：樹齢450年を越す荘川桜。御母衣ダム・発電所の建設に伴い、1960年に水没予定地から移植された。Jパワーにおける地域共生の象徴でもある。

して脱炭素化に向けたロードマップを明示し、予算も付け、電力業界でいえば洋上風力や太陽光などの再生可能エネルギー（以下、再エネ）に集中投資していく必要があると思います。

菅野 石炭火力を主力電源の一翼とするJパワーは、CO₂排出量が大きい会社です。それだけにCO₂削減にかける切迫した思いがあり、できる限りの企業努力を傾け、首尾一貫して低炭素化に取り組んでいます。ご指摘の投資性向にしても、今現在、最も投資額が多いのは水力、風力、水素などの再エネ分野なのです。

斎藤 脱炭素のためには、化石燃料に依存しないエネルギー供給システムへのトランジション（移行）が欠かせません。エネルギー自給率が低い日本でそれが容易ではないのは理解できるにしても、気候危機が待たないで押し寄せる今、コモンである企業のとるべき針路は明白だと思います。

菅野 もう1点、やはり当社の主力電源である水力に関して、小さいダムや発電設備で賄える小規模水力の可能性に注目しています。日本では大規模水力の開発余力はすでに尽きていますが、立地可能な小水力であれば、自治体などの主導で地域コミュニティを賄う

斎藤 それは私が大学生と接していても感じることで、昨今、自分のキャリアパスを第一に就職先を選ぶ傾向は薄れ、社会課題の解決に資する仕事になりたいという声をよく聞きます。世の中の評価軸が変わってきて、企業価値を計る上でも社会貢献や持続可能性がより重要視されている気がします。

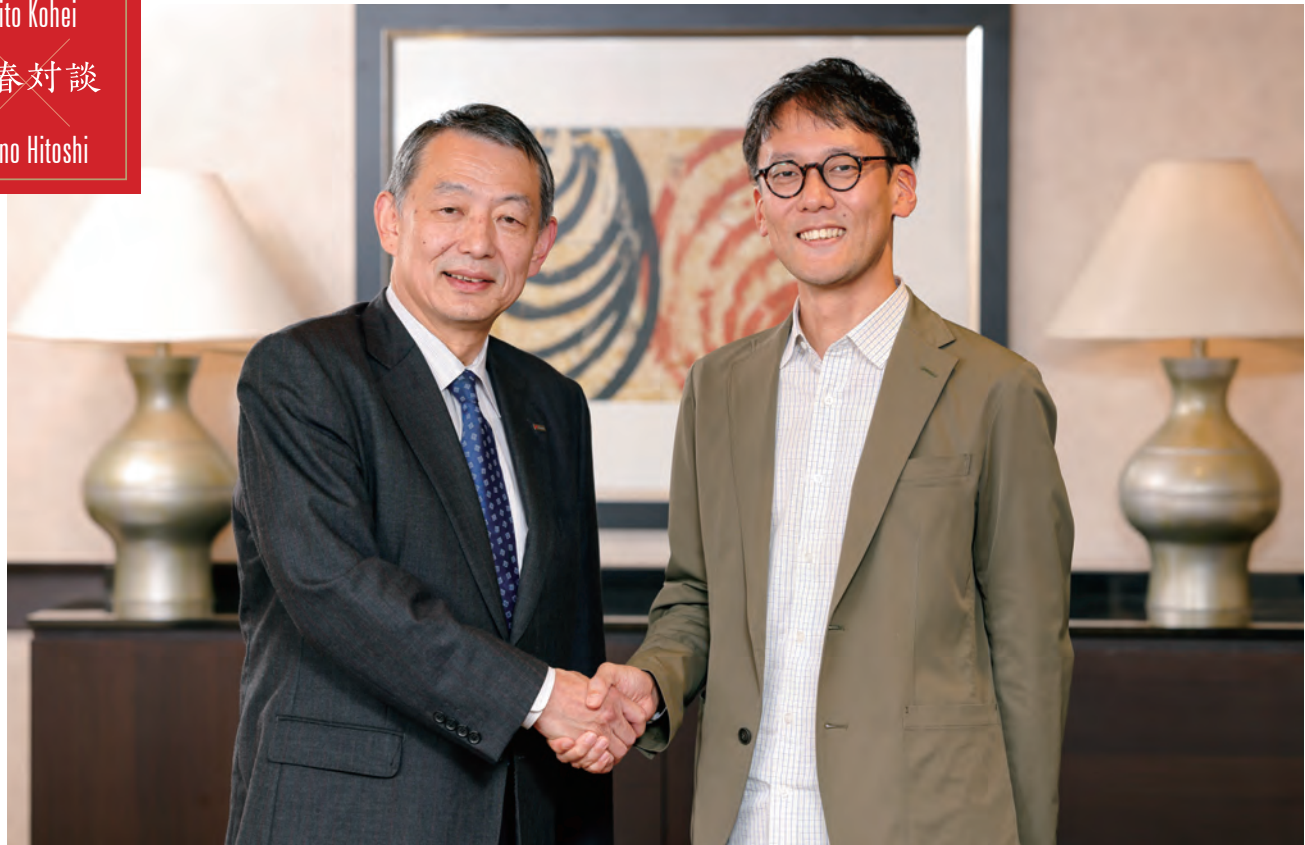
菅野 23年6月に私が社長に就いてから、社内向けに発信するメッセージなどで「地域共生を自分ごととし、その場所とともに生きている人間の課題として考えてほしい。会社の中の横並びよりも、地域全体の問題をむしろ優先してほしい」と言っています。

僭越ですが、この思いを「コモン」という言葉に託させていただこうと考えています。

斎藤 ありがとうございます。そういう形で地域と企業がもっと密着・連携し、どちらか一方が他方から収奪するような関係を解消していくことがコモンの発想の原点で、それが最終的には循環型で豊かな社会に結びついていく。また、そうした志を抱いて困難に立ち向かうほうが、よりチャレンジングなビジネスだと言えらると思います。

菅野 本日はありがとうございます。
(2023年11月1日実施)

Saito Kohei
新春対談
Kanno Hitoshi



50周年を迎えた関門橋

2023年11月14日、関門海峡を挟んで本州と九州を結ぶ関門橋は開通から50周年を迎えた。これに合わせて、ライトアップ用設備を白熱電球からLEDに更新する工事が約1年半にわたって行われ、12日からライトアップが再開された。関門海峡には海底トンネル3本、橋1本があるが、関門橋は唯一の高速道路で、物流の大動脈となっている。全長1,068mの吊橋で、1973年の開通当時は“東洋一のつり橋”と言われ、明石海峡大橋など日本の長大橋の先駆けとなった。

(P.26から、作家・藤岡陽子さんによる北九州市と下関市の紀行文を掲載しています)

文 / 豊岡 昭彦



写真 / 大橋 愛 Eye Ohashi

写真家。神奈川県生まれ。東京総合写真専門学校研究科卒業。写真作品活動のほか、企業広告、雑誌、出版等の分野で活動。個展、グループ展多数。写真集『お裁縫箱』、HeHeより発売中です。

GLOBAL EDGE

新春対談

エネルギーの担い手は人新世に何を成すべきか

斎藤 幸平 × 菅野 等 02

特集 境界を越えて新たな可能性を拓く

Global Vision 島田 慎二 × 坂木 萌子

「バスケで日本を元気に！」
異色経歴のチェアマンは窮地をどう乗り越えてきたか 14

Opinion File 伊藤 真波
不屈の挑戦が人生を変えた義手のバイオリニスト 22

特別座談会
魅力いっぱいの只見町にぜひお越しください！ 36

Focus On Scene 50周年を迎えた関門橋 10

Global Headline 寺島 実郎
ひとはなぜ戦争をするのか
知の巨人たちの往復書簡からの考察 13

Home of J-POWER 藤岡 陽子
栄枯盛衰の歴史を語る関門海峡に臨む港町
～北九州市と下関市、関門連系線を訪ねて～ 26

Global J-POWER 世界とともに タイ国 Vol.4
タイ国工業団地内のガス発電所を
タイトなスケジュールでリプレース 34

Venus Talk アート教育者 末永幸歩 42

匠の新世紀 有限会社エニシング 44

「音のソノリティ」を詠む 歌人 小島 なお
鬼首の噴気 48

J-POWER NEWS 49

北九州市と中国・大連市の友好都市締結15周年を記念して1994年に建てられた大連友好記念館の内観。ロシア帝国が1902年に大連市に建築した建物の複製（福岡県北九州市）。

表紙イラスト：鯉江 光二
本文デザイン：田村 嘉章、中川 まり、渡辺 美岐
制作協力：Weber Shandwick（ウェバー・シャンドウィック）

年頭にあたり、昨年をふり返るならば「2023年は戦争の年だった」と総括せざるを得ない。東ヨーロッパでウクライナ戦争が続く中、中東ではハマスとイスラエルの戦闘が起き、世界は2つの戦争に直面することになった。

そこで今回取り上げたいのは、今から90年以上も前の1932年夏に、アインシュタインとフロイトが「ひとはなぜ戦争をするのか」というテーマで往復書簡を交わしていたことだ。

相対性理論で有名な物理学者アインシュタインと、精神分析で有名な心理学者フロイト——この20世紀を代表する2つの知性（2人ともユダヤ人）が、なぜ、このようなテーマで往復書簡を交わしたのか。それは第1次世界大戦後に発足した国際連盟が、アインシュタインに対し、「最も大事だと思ふ問題について、最も意見交換したい相手と書簡を交わす」ことを要請したからだ。そして、アインシュタインが提起したテーマが「人間を戦争というくびきから解き放つことができるのか」であり、相手として選んだのがフロイトだった。

この往復書簡において、アインシュタインは平和を実現するために国家を規制する制度設計の必要性を語っている。一方のフロイトは、人間には2つの欲望が潜在・対立していると語る。一つは愛（エロス）であり、もう一つは攻撃本能だ。そ

の上で、攻撃本能を抑制するものとして、フロイトは「文化力」をあげ、知性によって文化の発展を促せば、人間の付加価値に対するリスクベクトルが生まれ、他者に対する共感や配慮が高まり、戦争の終焉に歩み出すことができると語る。このフロイトの結論には「そんな夢物語のようなことで問題は解決しない」と違和感を覚える人も多いかもしれない。

実は、この書簡が交わされた翌年にはヒトラーによるナチス政権がドイツに誕生し、その後アインシュタインは米国に、フロイトは英国に亡命することになる。

ユダヤ人は、ローマ帝国時代に中東から追放され、世界各地に離散した民族だ。ナチスドイツによるホロコーストが有名だが、移住した世界各地でユダヤ人は迫害に遭い、多くの辛酸をなめてきた。そのユダヤ人が第2次世界大戦後の1948年に、当時英国が委任統治していたパレスチナに「ユダヤ人の国」として建国したのがイスラエルだ。2000年近くもの間、苦難の道を歩みながら、その知性と合理性によって生き延びてきた民族が、自分たちが力を持ち、圧倒的優位に立った時に、先住民であるパレスチナ人たちに対し、あれほどまでに残酷で残虐な行いを行えるのはなぜなのか。フロイトのいう「文化力」について、もう一度噛みしめてみる必要があるだろう。

（2023年11月29日取材）

Global Headline

ひとはなぜ戦争をするのか 知の巨人たちの往復書簡からの考察



寺島 実郎

てらしま・じつろう

一般財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長。1947年、北海道生まれ。早稲田大学大学院政治学研究科修士課程修了、三井物産株式会社入社。調査部、業務部を経て、ブルッキングス研究所（在ワシントンDC）に転出。その後、米国三井物産ワシントン事務所所長、三井物産戦略研究所所長、三井物産常務執行役員を歴任。主な著書に『ダビデの星を見つめて 体験的ユダヤ・ネットワーク論』（2022年、NHK出版）、『人間と宗教あるいは日本人の心の基軸』（2021年、岩波書店）、『日本再生の基軸 平成の晩鐘と令和の本質的課題』（2020年、岩波書店）など多数。メディア出演も多数。



TOKYO MXテレビ（地上波9ch）で毎月第3日曜日11：00～11：55に『寺島実郎の世界を知る力』、隔月第4日曜日11：00～11：55に『寺島実郎の世界を知る力ー対談篇 時代との対話』を放送中です。（見逃し配信をご覧になりたい場合は、左記QRコードにアクセスしてください）

「30代リタイア」へ向けて起業
ビジネス界で掴んだもの

坂木 バスケットボール日本代表の
パリオリンピック出場が決まり、今、
Bリーグを中心にバスケットボール
の人氣が沸騰しています。実は、私
自身も中学校と高校の部活はバス
ケットボールだったのですが、先日、
初めてBリーグのゲームを家族で観
戦しました。

島田 ありがとうございます。白熱
するゲーム内容はもちろん、ハーフ
タイムのチアによるダンスパフォー
マンスなども充実させて、女性ファ
ンやファミリー層にも楽しんでた
だけるよう工夫を凝らしています。

坂木 スポーツ観戦の臨場感と、ラ
イブステージのような一体感を同時
に味わえました。こんなに凄いいん
ターテインメントをつくり出すB
リーグのチェアマンなら、さぞや競
技にも演出にも精通された方かと思
いましたが、実はバスケットボール
ともショービジネスともまったく無
縁とうかがい、とても驚きました。

島田 スポーツは若い頃にサッカー
をかじった程度で、大学を出て職を
得たのは旅行会社です。大学では演
劇に夢中になり、一時は俳優を目指

「バスケで日本を元気に！」 異色経歴のチェアマンは 窮地をどう乗り越えてきたか

フリーアナウンサー

Bリーグ チェアマン

坂木 萌子 × **島田 慎二**

倒産寸前のクラブを託され、瞬く間に常勝チームに成長させた有能な経営者。
人生の前半戦はビジネス界で活躍し、若くしてリタイア。その後は旅人となり、
後半戦はスポーツ界の発展に利他の心で尽くす若きチェアマンに話を聞いた。

そうかと思い、遅れて就職活動をし
て唯一受かったところに潜り込んだ
というわけです。

坂木 ところが、入社2年目には営
業成績でトップに立ったり、社長に
直談判してお給料を上げてもらっ
たりと、異色で異質なビジネスマンぶ
りを発揮されたとか。

島田 人と違ったのは、むやみに数
を取りに行かず、顧客の好みやニ
ーズを察知して先回りし、リピーター
を増やすことを心掛けたこと。直談
判のほうは社長を飲みにつけて、自
分はこれだけ稼ぐから給料は幾らほ
しいと言いました。社長は、そんな
駆け出し社員をおもしろがってしば
らく付き合ってくれましたが、3年
目にこれ以上は無理と突っぱねられ
たので「それなら辞めます」と退職
し、起業の道を選んだわけです。

坂木 たった今「破天荒」という文
字が脳裏を横切りました。それにし
てもなぜ、そこまで深く区切りをつ
けられたのでしょうか。

島田 社会人になる時に、「30代で
リタイアする」という目標を立てた
のです。そこからの逆算で、まず稼
げるシチュエーションをつくって経
営者として成功するための第一歩を
踏み出そうと。すると上司と一緒に



やろうと声を掛けてくれ、共同経営の旅行会社を立ち上げたのが25歳の時でした。

その新会社が堅調に業績を伸ばしつつあった矢先、米国で9・11同時多発テロが起き、旅行業界全体が窮地に立たされました。

同業他社が次々に廃業し、我々の会社も経営が傾きましたが、ここで首をもたげたのが私の身上である「逆張り」の精神です。みんなが辞めるなら自分は始めるぞと、10月には会社を辞めて新会社設立の準備を始め、12月には自分だけの旅行会社を立ち上げました。

坂本 それから10年近く、がむしやりに働いて育て上げたその会社を業績好調のまま売却されています。どういう決断だったのでしょうか。

島田 目標の「30代リタイア」の期限が迫る中、会社の成長プロセスとして株式上場か、企業売却かの二者択一になりました。その最中に今度はリーマンショックが起きて株式市場が大混乱になったため、上場は諦めて売却するしかなくなりました。幸い当時の社員の大半は今も売却先の上場企業に所属しています。私だけが会社を離れて「30代でリタイア」という念願を果たしたわけです。

の千葉ジェッツからのオファーです。

坂本 未知のバスケットボール界に足を踏み入れるのに何がフックになったのですか。

島田 2011年に千葉ジェッツを立ち上げたオーナーが、私の旅行会社の株主として支えてくださったいたのです。当時のバスケットボール界はチーム力、集客力ともに脆弱で、クラブ経営は青息吐息なのを私も聞いていました。3・11東日本大震災後の混乱が続く中、クラブ再建に手を貸せと請われて二の足を踏んでいたら、取締役会で「島田が社長に就くか、断られたらクラブを畳む」と方針が決まったと知らされました。

坂本 まさに究極の選択を迫られたわけですね。

島田 誰が見ても倒産まっしぐらの状況で、とはいえ、今以上に落ち込むことはないと思い直して、渋々「1年だけやりましょう」と引き受けたのが2012年の春です。こちらもフィレンツェの誓いを思い起こして、後半生の第一歩がこのお役目だったのかと腹を括りました。

坂本 社長に就いた島田さんの目に、それまでのクラブ経営は、どう映ったのでしょうか。

後半生では自分ごとを封印し、他の誰彼のために微力を尽くす利他の生き方に徹しよう。

「千葉ジェッツ」再建を託されリーグ屈指の人気チームに

坂本 旅行会社の経営にピリオドを打った島田さんは、一転、世界を巡り歩く旅人になりました。ビジネス界をダッシュで駆け抜けたあと、一旦、人生をリセットするような心境だったのでしょうか。

島田 これは私が門外漢ゆえの気付きかもしれませんが、スポーツ業界は特別な業界だと意識過剰になり、普通の会社ならあたり前にする企業努力を怠ってきたのではない

か。よい商品をつくり、よいサービスを提供し、きちんと顧客対応をして、ファンを増やして応援される状況を整えることをシンプルに、愚直

島田 人様に勧めるだけでなく、自ら訪ねたい名所旧跡も山ほどあったので、人生後半の自分探しの旅に出たという感じです。海外移住も視野に入れつつ、国内や世界中を巡りながら2年が過ぎた頃――フィレンツェの景色のあまりの美しさに心を奪われ、宿に帰ってから自分の来し方、記憶に残る3歳頃から40歳まで

にやり続けることが大事だろうと考えたのです。

坂本 スポーツビジネスの高揚感に惑わされず、目の前にある一つひとつを積み上げていくイメージですね。

島田 そうやってファンとの信頼関係を築くのが外向きの改革とすれば、それと同じくらい内向きにも意

会社経営にピリオドを打ち、世界を巡り歩く旅人になってみて見つけた答えだったのですね。



島田 慎二(しまだ・しんじ)
Bリーグ チェアマン。1970年、新潟県生まれ。日本大学法学部卒業後の1992年、株式会社マップインターナショナル(現エイチ・アイ・エス)入社。1995年に法人向け海外旅行を扱う株式会社ウエストシップを共同設立。2001年に同社を辞し、株式会社ハルインターナショナルを設立。2010年に全株式を売却し、コンサルティング会社リカオンを設立。2012年に株式会社ジェッツ・インターナショナル代表取締役社長に就任。公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ(Bリーグ)理事などを歴任し、2020年にBリーグ 理事長(チェアマン)に就任、現在に至る。著書に『最強のスポーツクラブ経営バイブル』(集英社)など。

を、順を追って文章にしてみたのです。そうすると、あまり良い行いをしてこなかったなど。この先80歳まで生きるとして、後半生では俺が俺がという自分ごとを封印し、求めに応じて力を尽くす生き方がしたいなと。いわば、利他の生き方に徹しようと思えました。そんな時に舞い込んできたのがプロバスケットボール

識改革を促し、私自身が社員やスタッフから信頼される存在にならなければなりません。経営ビジョンを彼らに示し、結果を出せば給料やボーナスで報いると約束しました。足掛け2年、それを有言実行して、社員たちから信頼されていると実感できたタイミングで、初めて「日本のクラブになろう!」と宣言しま

Global
Vision
Shimada Shinji
Sakaki Moeko

坂本 萌子(さかき・もえこ)
フリーアナウンサー。1987年、高知県生まれ。中学・高校ではバスケットボール部に所属。早稲田大学商学部卒業後の2009年、さくらんぼテレビジョン入社。翌年フリーアナウンサーに転身し、主に日本テレビ系列各局の多くの番組でキャスターやコメンテーターとして活躍。2020年3月に第2子を出産。現在はBS日テレ「コーポレートファイル」インタビューなどを務めている。



Bリーグ2022-23シーズンで、千葉ジェッツとの激戦を制して初優勝を遂げた琉球ゴールデンキングス（上）。下は優勝トロフィーを授与する島田チェアマン。

島田 リーグの理事会に名を連ねるのはいいが、2年目に副チェアマンのポストを振られた時はさすがに逡巡しました。千葉ジェッツ社長との兼任という前代未聞の二刀流になるので、ならば1年限定の条件付きで引き受けよう。その代わり、自ら日本全国のクラブチームを飛び回って「クラブの成長なくしてリーグの発展はない。リーグの発展なくしてバスケットボール界の繁栄もない」と触れて歩き、個々のクラブ運営を支援するのがBリーグの仕事だと背

つれて、双方が歩み寄れるきっかけや空感をつくれた気がします。その後、2リーグ併存問題は地元開催の東京オリンピック出場をめぐる一本化への道をたどり、2016年にBリーグが発足。野球、サッカーに次ぐ第3のプロスポーツリーグ誕

「ビジネス界からスポーツ界へ
轉身された島田さんにいくつも
壁が立ちはだかったのですね。」

生へと至りました。

坂本 そのBリーグ発足がトリガーとなつて、日本のバスケットボール界に一大ムーブメントが巻き起こった印象があります。その火付け役の一人である島田さんには当然、周囲から卓越した手腕への期待が集まり、今度はリーグ運営の中核を担う役どころへのオファーが舞い込みます。

エンターテインメントと強さが両立するチームへ
坂本 次々に繰り出す施策が功を奏して、千葉ジェッツは日本で初めてレギュラーシーズン入場者数10万人を達成し、天皇杯で3連覇を果たすなど、人気と実力を兼ね備えたクラブチームに生まれ変わりました。これは想定通りでしたか。

島田 崖っぷちからのスタートで、そこまで勝算があったわけではありません。ひたすら、スポンサー収入を増やそうと、あらゆる人脈を活かして企業経営者を口説いて回ったり、新たなファンを呼び込むために本場米国のNBAから帰国したスター選手と電撃契約を結んだり、本気で勝負に打って出ました。そんなトップの本気度が伝わってスタッフが自律的に動き出すような良い緊張



Bリーグ発足後は旧リーグに比べて集客力が軒並み倍増し、人気の高い対戦カードではチケットが取りにくい状況だ。



島田さんが人生の転機となったというイタリア・フィレンツェ。写真：高橋暁子／アフロ

Global
Vision
Shimada Shinji
Sakaki Moeko

「トップの本気度が伝わって
スタッフが自律的に動き出すような
よき緊張感を大事にしています。」

坂本 感が生まれたと思います。坂本 ビジネス界からスポーツ界へ轉身された島田さんの行く手に、もう一つの壁が立ちはだかりました。当時の日本のバスケットボール界には2つのリーグが併存していたとのことですが。

島田 当初は両リーグからドン引きされましたが、この移籍によってbjリーグの優位点をNBLに移植するという我々の意図が理解されるにくりを大事にするbjリーグに二分されていきました。強さも楽しさもプロスポーツの必須要件なのに、なぜ両方を狙いに行かないのかと私には違和感しかなかった。ならば、千葉ジェッツが一挙両得をかなえる最初のクラブになろうと動き出したわけです。



中で示すために、行く先々で勉強会を開いたり、経営指導をしたり、スポンサーへの営業を一緒にやったりしました。

パデミックの逆境下で Bリーグチェアマンに

坂本 1年間、副チェアマンを務め上げた島田さんは、古巣に戻って千葉ジェッツの経営に専念されることになりました。これまでの島田さんの生き方にやや背く気もします。

島田 らしくないと言えば確かにそうかもしれませんが、リーグの中核にとどまってチェアマンを補佐するよりも、千葉ジェッツを他の追随を許さないチームに育てたほうがバスケットボール界により強いインパクトを残せると判断しました。実際、クラブ経営に戻ったその年から天皇杯3連覇を達成しました。自分で言うのも変ですが、あまりサブキャラ向きではないという自覚もあります。

坂本 根っからのトップキアラというのは衆目の一致するところのようで、3連覇から2年経った2020年の春、ついにBリーグチェアマンへの就任要請が届きます。ちょうどコロナ禍が世間を震え上がった時

「バスケットで日本を元気にし、 クラブチームとアリーナ施設で 地方創生に貢献していきます。」

期に重なり、先々の見通しも立たない中でオフアードでした……。

島田 なんの因果か、私の人生の節目節目でそうした災難に見舞われるのは巡り合わせでしょうか。今度の節目にも地球規模のコロナ禍が行く手を遮ってはいるものの、それを覚悟の上でやらねばならないと直感して、即座に「お引き受けします」と答えました。今がどん底なら、これから浮かびこそすれ、沈むことはないという気持ちもあって、割と気は楽でしたね。コロナ禍の中で最大の懸念材料は何かといえば、全国各地に根を張るクラブチームの経営が大打撃を被りかねないこと。それはク

「まだBリーグチームがない 私の出身県の高知にもできたら 家族みんなで応援します。」

ラブ経営者の一人として身の丈で理解できたし、副チェアマン時代と同じくクラブ運営の徹底サポートを前面に打ち出すことで、チェアマンの職責をまっとうしようという決心に決めた。

クラブチーム全県制覇で 地方創生に貢献したい

坂本 それ以降、Bリーグは逆境をものともせず、右肩上がりで活況を呈しています。そうした中で、リーグの構造改革を促す「2026ニューBリーグ構想」をチェアマン主導で打ち出されたそうですが。

島田 これは通称「B・革新」と呼

んでいて、リーグ発足10周年を迎える2026年に向けてビジネスモデルを大転換しようという計画です。「バスケットで日本を元気に」という共通理念のもと、全国に56あるクラブチームとアリーナ施設とで地方創生に貢献しようと目標を明文化しました。その達成に向けて、各クラブとファンの皆さんがともに地域を盛り立てていくためのビジネスモデルの最適化に取り組んでいます。

坂本 もう一つ、日本バスケットボール界の近未来を見据えた「ジャパン・バスケットボール・スタンダード」という構想とは？

島田 こちらはBリーグ発足以来の悲願である、バスケットボールを野球、サッカーに次ぐ第3のプロスポーツとして確立する年限を、日本バスケットボール協会が100周年を迎える2030年に定めたものです。男子・女子のバスケットボールだけでなく、車いすバスケットボ

ルや3×3などの競技種目も含めて総力を結集し、目標達成に立ち向かっています。

坂本 今のお話にあった、バスケットで地方創生を、という考えに深く共感します。実は私の出身県である高知にまだBリーグのチームがなくて、とても残念なのですが。

島田 四国では徳島、愛媛、香川にチームができ、あとは高知だけなので、私が自ら出張ってでも立ち上げたいと考えています。2028年までに全県制覇を達成すると、すでに対外発表もしているんです。

坂本 高知にチームができたら家族で応援します。最後に、体現者の言として「境界を越えて新たな可能性を拓く」ための秘訣をお聞かせください。

島田 私の信条は「明けない夜はない」で、どんな窮地に陥っても視野を広くとって前を向くことです。逆にうまく回っている時こそ気を引き締めなければしないと自戒しています。そして常に、今できることに全力を尽くすこと。言い換えるなら「メンタルの安定が、よきジャッジメントを生む」と信じて我が道を行くことでしょうか。

(2023年11月24日実施)



不屈の挑戦が人生を変えた 義手のバイオリニスト



伊藤 真波

バイオリニスト
元パラリンピック水泳日本代表

母を助けたい思いから 看護師の道を志す

2021年8月24日、新国立競技場にバイオリンの美しく切実な音色が響いた。東京2020パラリンピック開会式（※1）。競技場を飛行場に見立てたパフォーマンスが繰り広げられ、「片翼の小さな飛行機」が抱える葛藤を繊細なメロディで表現する。演奏者は伊藤真波さん。事故で片腕を失い、多くの葛藤を抱えながら歩み、この舞台に立ったバイオリニストだ。

2歳上の姉、5歳下の弟を持つ次女として育った伊藤さん。3姉弟の誰かが病気になるたびに慌てる母親を見て、幼心に「看護師としてお母さんを助けたい」という思いを抱くようになった。幼い頃の夢をかなえるべく、看護科のある高校に進学。その後、看護専門学校に進み、夢に向かって邁進する日々を過

ごしていた。そんなある日、事故は起こった。実習先の病院にバイクで向かう途中にトラックと衝突。右腕がタイヤに絡んでしまう大事故だった。

「その日は実習の最終日で、さあ明日からやっと思えるぞ、と思いながら出かけたんです。まだ二十歳になったばかりでした」

伊藤さんがバイクに乗り始めたのは18歳の時。バイクが好きだった父親の影響で免許を取ったが、母親は最後まで反対していたという。

「習い事も学校の進路も、私が望むことはすべて応援してくれた母ですが、バイクだけは許してくれませんでした。でも、専門学校に通いながら准看護師（※2）として働いていた当時の私は、自分で稼ぐようになったことで、偉くなったと勘違いしていたのでしょうか。反対を押し切ってバイクを乗り回していたわけですが、そのバイクで事故を起こしてしまっ

た、それだけでいいと」

痛みで眠れず、食事でも喉を通らない。感染症も進み危険な状態にあった娘に対して、両親は決断を促したのだった。「腕を切ってください」と自分から先生に伝えなさい、それが責任を取るということなのだ。

「幼い頃からいろいろな習い事をさせてもらいましたが、自分の意思で始めたことは自分で責任を取るよう常に言われてきました。

右腕を切断するという決断は、本人がしなければいけない。ここでも母の教えは変わらなかったわけです」

もう看護師になる夢を見てはいけない。そう言い聞かせてきたが、見舞いに来た看護学校の先生から、思いがけず復学を進められた。

「一筋の光が差すとはこういうことなのかと思いました。もう一度夢を見たい、ぜひ学校に戻らせてくださいとお願いしました」

復学の条件は、看護師専用の義手をつくることだった。看護現場で使える義手をつくれる病院を探し、たどり着いたのが兵庫県立リハビリテー

ション中央病院だ。当時、静岡で家族とともに暮らしていた伊藤さんは、単身、神戸で暮らすことになった。

障がい自分らしさ 新たな人生をリスタート

転院した当初は、寂しくて泣いてばかりいたという伊藤さん。その心を開いてくれたのは、同じ病院に入院していた患者たちだった。「カーテンの向こうから『ご飯を一緒に食べようよ』と声をかけてくれたんです。そうつと覗いたら、私よりも重度の障がいがある人たちがばかり。『どこから来たん？』、『なんで腕がないの？』とズケズケ突っ込んでくるのですが、それが格好いいなと思えてきて。障がいを『自分らしさ』と受けとめてくれる人がいることに感銘を受けました。だから、みなさんの話もぜひ聞かせてください、とカーテンの外に出ていったのです。あれが私の第2の人生のスタートでした」

半年ほどのリハビリを経て復学したのち、伊藤さんは日本で初めての「義手の看護師」として、神戸の病院で働き始めた。仕事を始めた当初は、自分に何ができるのか思い悩んだ。そんな伊藤さんに、看護師としての自信を持たせてくれた出会いがあった。

「その患者さんは、早くしろと受付で怒鳴り声を上げていました。受付のスタッフが萎縮している様子だったので、私は患者さんの隣に座り、お話を聞くことにしたのです。その

を絶やさず、毎日病院に来てくれた。

「自業自得だと叱ってくれたらどれだけよかったかと思います。しばらくして母が、お父さんと相談したのだけど、と重い口を開きました。学校にも、仕事にも、お嫁にも行かなくていい。お父さんとお母さんが仕事から帰ってくるのを、毎日家で待っていてくれた



多くの観衆を魅了する伊藤さんのバイオリン演奏。

※1 東京2020パラリンピック開会式

コンセプトは「WE HAVE WINGS（＝私たちには翼がある）」。滑走路をイメージした競技場で、大空を飛ぶことを夢見る「片翼の小さな飛行機」のストーリーが展開された。

※2 准看護師

医師や看護師の指示のもと看護や診療を行う。都道府県知事が発行する資格で、正看護師は厚生労働大臣が発行する国家資格。准看護師として実務経験を積みながら正看護師を目指す人も。



「バイオリンを練習しようすると、おかあしやーんと娘が寄って来るんです」と微笑む伊藤さん。

「もう、バタバタの毎日です。家族に助けてもらいながら何とかやっている感じです。娘たちにとっては、片腕がない母親が、当たり前。どの家にもそれぞれのの当たり前があって、それでいいんだよと教えています」子どもたちの髪は足を使って結ぶ。まだ三つ編みができず、娘に文句を言われると笑う伊藤

いとうまなみ
バイオリンリスト、元パラリンピック水泳日本代表。1984年、静岡県生まれ。5歳から水泳、7歳からバイオリンを始める。幼い頃から看護師に憧れ、静岡県立清水西高等学校衛生看護科に入学。その後、静岡県医師会看護専門学校で学んでいた20歳の時に交通事故に遭い、右腕を切断する。看護師用の義手を製作し、神戸百年記念病院に入職。看護師として働く傍ら、水泳選手としても活躍し、2008年北京パラリンピック、2010年アジアパラ競技大会などで好成績を収める。2015年に神戸百年記念病院を退職。東京2020パラリンピックでは、静岡県の聖火ランナー、開会式でのバイオリン演奏を務めた。

取材・文／脇ゆかり（エスクリプト） 写真／竹見脩吾

う一度バイオリンを弾きたいと考えるようになりました」
そこで、看護師用の義手が完成したあとで、バイオリン用の義手を製作してもらうことにした。しかし、いざバイオリンを構えてみると、肩甲骨で義手を動かしながら弦を鳴らすのはことのほか難しく、しばらくは家の中でこっそり弾いていたそう。

「上手な演奏ではなかったですし、弾いている姿を見せたくありませんでした。看護師用義手は上から白衣を着ますが、バイオリン用は洋服を羽織らず、あえて見せるつもりでつくってもらったもの。にもかかわらず、格好が悪くて恥ずかしいと感じたんです。でも次第に、前例のない義手をつくってくれた先生方に恩返しをしなければと思うようになり

ました。この手をみんなに見せて、音を聞いてもらわなければ」と

現在は病院を退職し、講演活動とともにリサイクルの開催や音楽フェスへの参加などバイオリンリストとしての活動が多くなった。気になる『精霊流し』だが、自身の結婚披露宴で演奏したそう。

家に帰れば、小学校1年生、4歳、1歳の3姉妹の育児に奮闘するママの顔になる。

「もう、バタバタの毎日です。家族に助けてもらいながら何とかやっている感じです。娘たちにとっては、片腕がない母親が、当たり前。どの家にもそれぞれのの当たり前があって、それでいいんだよと教えています」子どもたちの髪は足を使って結ぶ。まだ三つ編みができず、娘に文句を言われると笑う伊藤さんだが、その愛情は伝わっているはずだ。今は理解できなくても、母親が教えてくれたことの大きさに、いつか気がつく日が訪れるだろう。かつての伊藤さんのように。「入院している時、私は両親に八つ当たりばかりしていました。父がバイクに乗っていないければ事故に遭わなかったと責めたこともあります。でも、父は何も言わずに、事故の後すぐに愛車を処分しました。ツーリング仲間には、自分が娘の人生をぐしゃぐしゃにした、だからバイクにはもう乗れないと話したそうです。それを聞いて、自分は何てことを言ってしまったのだろうと後悔しました。毎日当たってばかりの私を、両親は責めることなくそばにいてくれた。そんな2人に、いつか自分の幸せな顔を見てもらいたいと思うようになりしました。私が挑戦を続けてこられたのは、そんな願いがあったからかもしれません」
今、伊藤さんの表情はあたたかな幸せに満ちあふれている。そこには、多くの人を勇気づけるとてつもないパワーが秘められている。

※J-POWERは日本バラスポーツ協会に協賛しています。



※6 精霊流し

さだまさしをボーカルとするフォークグループ・グレイプが1974年にリリースした楽曲。さだまさしの故郷である長崎市で行われる精霊流しを題材にしている。

※5 アジアパラ競技大会

アジア地域の障がい者スポーツの総合大会。前身のフェスピックから引き継がれ、2010年からアジアパラ競技大会を開催。伊藤さんが出場した第1回大会は中国・広州で開催された。

※4 車いすバスケットボール

競技用の車いすを操作しながらプレーするバスケットボール。コート広さやバスケットの高さは一般のバスケットボールと同じ。その迫力やスピード感あふれるプレーが魅力。

※3 水泳

パラリンピックでは、肢体不自由、視覚障がい、知的障がいの選手が対象。障害の程度により補助具の使用や、コーチによるスタートの補助などが認められている。義手などの装具は身に着けない。

後にも、通院されるたびに世間話のような他愛のない話をしました。そのうちにお土産を持ってきてくれるようになって。ようやく心が通じ合えたのかなと思いました。私はその方に採血をしたわけでも、ガーゼを交換したわけでもありません。ただ隣で話を聞いていただけですが、寄り添うとはこういうことなのだと実感したのです」
自分だからこぞできる看護が必ずある。そんな自信が徐々に芽生えていった。

水泳で銀メダルを獲得 パラリンピックの快挙

看護師の仕事とともに、伊藤さんの第2の人生を輝かせたのは水泳（※3）だった。事故後に入院していた病院で、車いすバスケットボール（※4）の試合を見たことがきっかけだ。「車いす同士が音を立ててぶつかり合い、ボールを奪い合う姿がとにかく格好よかった。倒れてもボールに向かって走る姿を見て、私もスポーツの力を借りて、倒れても起き上がれる強い人間になりたいと思いました」

5歳の頃から水泳を習っていたので泳ぐ自信はあった。でも、水泳を選んだ理由はそれだけではない。右腕の傷跡、自分にとって一番弱い部分を見せることで、さらに強くなれると思ったからだ。

「事故当時、二十歳の私にとっては、この傷跡は絶対に見られたくない部分でした。服を着ていれば一生隠し続けられますが、あえてさらけ出そうじゃないかと」
神戸にある福祉センターのプールを訪れたところ、日の丸の帽子をかぶったパラリンピックの選手たちが颯爽と泳いでいる姿を目にした。その様子を見て、自分もチームの一員となって世界を目指したいと思ったそう。

その後、神戸百年記念病院に就職した伊藤さんは、福祉センターの障がい者水泳チームに所属。看護師の仕事の傍ら水泳のトレーニングに励む毎日がスタートした。そこから、世界に挑む伊藤さんの快進撃が始まる。2007年4月に水泳を再開し、同年12月の世界大会で記録を出し日本代表選手に選出。



左は看護師用、中央と右はバイオリン用の義手。演奏用の義手は今も改良を重ねている。

翌年の北京パラリンピックでは、1000mバタフライで8位、1000m平泳ぎで4位に入賞。2010年のアジアパラ競技大会（※5）では1000m平泳ぎで銀メダルを獲得した。「初めは水着を着るだけで体力を使い切ってしまう、いざ水着になっても、プールサイドへの一歩が踏み出せずに帰ったこともありま

す。でも、できないことより、できたことを数えるようにしようと思って、徐々にプールサイドに近づいていきました。思い切ってプールに飛び込んだ時は気持ちよかった。水に入れば、もう腕がないことなど誰も気にしませんでした。基礎があつたのですぐに泳げるようになりました。自分にできることが増えたのが、すごくうれしかったのを覚えています」

いつか聞かせたかった さだまさしの「精霊流し」

水泳により肩甲骨を鍛えたことが、のちに伊藤さんの財産となる。実は伊藤さんには、神戸で入院していた頃から、もうひとつの野望があった。7歳の頃に始めたバイオリンをもう一度弾いてみたいという夢だ。

「子どもの頃はバイオリンの練習が嫌いで、やめたくて仕方がなかったんです。でも、右腕を失った時に、母がぼつりと『バイオリン、弾けなくなっちゃったね』とつぶやいたんです。母はさだまさしさんが好きで、いつか『精霊流し』（※6）を弾いてほしいと言っていました。どんな姿でもいいから、母のためにも

山口県下関市

関門海峡

福岡県北九州市

栄枯盛衰の歴史を語る 関門海峡に臨む港町

～北九州市と下関市、関門連系線を訪ねて～

九州と本州を結ぶ関門橋は全長1,068m。1973年の開通時には、東洋一の長さを誇った。奥に見えるのが関門連系線。

九州と本州をつなぐ関門連系線は、Jパワーグループによって運営・管理されている。関門海峡を渡る送電線と、それぞれの始点となる北九州市と下関市の歴史や文化を知る旅に出た。

作家 藤岡 陽子／写真家 大橋 愛

寒村が特別輸送港に指定
急発展を遂げた旧門司村
いまだから135年前の1889
年、関門海峡に臨む一つの村に奇
跡が起こった。

その村とは福岡県北九州市にか
つてあった門司村のこと。当時
は製塩と漁業で生計を立てる寒村
だったという。

門司村に起こった奇跡というの
が、国の特別輸送港に指定された
ことだ。

指定後は門司港と呼び名を変え
て築港作業がすすめられ、2年後
の1891年には門司駅（現在の門
司港駅）から高瀬駅（現在の玉名
駅）の区間に九州鉄道が開通した。
さらに筑豊炭の輸出が増加する
と石炭の積出港としても重要視さ
れ、特別輸送港の指定を受けてか
ら27年後の1916年、門司港に

出入りする船舶数は日本一に。時
代が明治から大正へと向かう中、
天に龍が昇るかのように門司港は
発展を遂げていくのである。

全盛期から100年を経て
門司港は人気の観光地に

この場所に確かにあった栄華に
思いを馳せながら、関門海峡を眺
めていた。淡い銀色に輝く海には
貨物船や客船など、大小様々な船
がひっきりなしに現れる。

関門海峡の幅は、最も狭いところ
で約650m。流れが速く、し
かも1日4回、およそ6時間ごと
に潮流を変える気難しさだ。

それでも昔と変わらず重要な海
路であり、いまでも国際航路として
使用されている。

ひとしきり海を眺めた後は、門
司の街を歩いてみた。潮風を感じ
ながら、遠い日の喧噪を想像して
みる。

エメラルド色の銅板葺き屋根が
素敵な門司港駅。

赤レンガや御影石の外壁が美し
い旧門司税関。

中国大連市で生産されたレンガ
を輸入し、ドイツ風建築物を模し



藤岡 陽子 ふじおか ようこ
報知新聞社にスポーツ記者として勤務した後、タンザニアに留学。帰国後、看護師資格を取得。2009年、『いつまでも白い羽根』で作家に。最新刊は『リラの花咲くけものみち』。その他の著書に『満天のゴール』『おしよりん』など。京都在住。



下関市にある唐戸市場内。名物ふぐの巨大オブジェがお出迎え。



国際貿易港だった時代を支えた旧門司税関。



1914年に創建されたJR門司港駅。ネオ・ルネサンス洋式を取り入れた駅舎は国の重要文化財に指定されている。

1 中国・大連市との友好都市締結15周年を記念して建築された大連友好記念館。 2 関門トンネル人道内に示された県境ライン。 3 九州最北端にある和布刈神社。 4 関門海峡は源平最後の対決「壇ノ浦の合戦」の舞台。 5 壇ノ浦の合戦に敗れて入水した安徳天皇が祀られる赤間神宮。 6 日清講和記念館内には下関条約を結んだ「講和会議場」が再現されている。 7 みもすそ川公園にある源義経の像。 8 四季の移ろいを感じる長府庭園。

門司の魅力について尋ねると、末吉さんが迷うことなく答えてくれる。古代、近代における門司の歴史を深く知ってもらいたい。そうすることで門司の魅力がよりいっそう伝わるのでは、と笑顔で話す。 5 階建ての広々とした館内には、全盛を極めていた大正時代の門司の街並みを再現したエリアもあった。路面電車が走り、バナナを売る行商人の声が響く。門司港はバナナ輸入船の寄港地でもあり、傷みかけたものをさばくためにバナ

「ここはもともと国際港だったので、中間地点としていろいろなものが入ってくるのがおもしろいです。人も物も固定化されていないというか」

北九州側のめかり山と下関側の火の山も、絵画の中に美しく収まっている。

「まず初めに、こちらにご案内したかったんです」と末吉さんが連れていってくださったのは、関門海峡が一望できる展望デッキ。海の上をまっすぐに渡る関門橋が真正面に見え、青のグラデーションで彩られた絵画のようだ。関門海峡の両岸にある

「まず初めに、こちらにご案内したかったんです」と末吉さんが連れていってくださったのは、関門海峡が一望できる展望デッキ。海の上をまっすぐに渡る関門橋が真正面に見え、青のグラデーションで彩られた絵画のようだ。関門海峡の両岸にある

大正時代の街並みを再現タイムスリップを楽しむ

て建てられた大連友好記念館。街に残る歴史的建造物の数々が国際貿易港として名を馳せた明治、大正時代の絢爛を伝えてくる。そして全盛期から約100年の時を経て、いまこの場所は門司港レトロと呼ばれる人気の観光スポットとなり、国内外の観光客の目を愉しませていた。



8



7



6



5



4



3



2



1

年商を誇る商社、神戸の鈴木商店の、大里酒精製造所として始まりました」

鈴木商店は酒の他にも製糖所、製粉所、製塩所、製鉄所など多数の工場を営み、大里臨海部に鈴木コンツェルンを形成していたとされる。

昭和金融恐慌の影響を受け、経営が悪化し、鈴木商店の名は失われたが、所有者を変えながらもいくつかの工場はいまも稼働し続けている。

「門司工場では主に焼酎の製造、瓶詰め、リキュールの製造、合成清酒の製造を行っています。太宰府天満宮のお神酒は梅酒なんです、その梅酒もこちらの工場でつくっているんですよ」

滝澤さんに工場内を案内していただきながら、酒づくりについて学んでいく。焼酎の製造工程を見学するのは楽しく、工場内に漂うバナナっぱい甘い匂いに魅了された。甘い匂いは醗酵中のもろみの香りで、主力商品となる麦焼酎「かのか」の香りでもある。

1万7561坪もの面積を持つ敷地には桟橋があり、関門海峡を

1 関門海峡ミュージアムに展示してある海峡歴史回廊。歴史ドラマが人形で再現されている。 2 外観も大型客船のような関門海峡ミュージアム。関門海峡を楽しむ体験型の博物館。 3 門司の魅力を発信し続ける末吉さん（左）と筆者。23年秋には「門司港の煉瓦と未来展」を開催し、煉瓦建築の見どころを紹介したという。 4 蒸溜器。揮発成分と不揮発成分を分ける装置で、アルコールと良い香りだけを回収する。 5 門司工場の工場長 滝澤宗禎さん（右）と筆者。 6 紙パックに充填された芋焼酎「かのか」。



ニッカウヰスキー門司工場の赤レンガ倉庫。夜はライトアップされ、観光名所にもなっている。



渡ってきた船が、積み荷を直接運び込めるようになっていた。桟橋に立つと、川のように速い流れが肌で感じられる。

「このエリアに工場が集中していたのは、原料などを海からそのまま出入れできたからでしょう」

所有者を変えながらも、100年以上続いてきた大里の門司工場での酒づくり。「美味しい酒をつくり、安全に届ける」という思いはいつの時代も変わらずに継承されているのだと知った。

偶然か、必然か……。

取材に訪れた日、関門橋は開通50周年を迎えたという。

人々の往来や物流の運搬を担ってきた橋も、半世紀ぶん、年を取った。時が進むスピードを、過去と未来が交差する世界屈指の海峡の流れに重ねてしまふ。

これから世界はどうなるのか。先が見えないことへの不安も、正直ある。でも、自分ができることをするしかないと思うのだ。

先人がそうであったように、この地で出会った方々が教えてくださったように、ただ今日を全力で生き抜こうと思える旅となった。

一般の見学は受け付けていないところを特別に許可をいただき、工場長の滝澤宗禎さんに話を聞かせていただいた。

「うちの工場ができたのは1914年のことです。当時、日本一の

大正時代に始まった酒づくり
ニッカウヰスキー 門司工場
門司区大里元町の国道199号線沿いに、趣のあるレンガ倉庫が立ち並んでいた。こちらのニッカウヰスキー門司工場では、アサヒビールグループの主要焼酎の製造を行っている。

ナ の叩き売りが発祥したらしい。

「門司の海は、どこにでもある海とは違います。なぜ関門海峡がおいしいかを知ってもらって、きれい、お洒落を越えた良さを伝えたいと思っています」

末吉さんの言葉通り、歴史や文化を知ること、目の前の景色が意味を持ち、よりいっそう魅力あるものとして感じられる。

数年前にはめかり山と火の山の間、関門海峡の上空に約1・8kmのジップラインをつくる計画もあるそうで、夢が膨らんでいった。

関門連系線
回線数・電圧：2回線50万V
区間：北九州変電所
（九州電力送配電株式会社）
新山口変電所
（中国電力ネットワーク株式会社）
運転開始：1980年5月

門司側のめかり公園内にある94号鉄塔は160mの高さを誇る。

下関側の95号鉄塔は高さ127m。

山室所長（右）と筆者。背景には赤と白の門型鉄塔。

関門海峡を横断する関門連系線（右）と関門橋。海面高は70.28mを確保し、船舶の通行の障害にならないよう配慮されている。

1 2006年まで付近に空港があったため、目立つ塗装が施された41号鉄塔。2 ガントリーとも呼ばれる門型鉄塔。3 鉄塔と電線の間には「がいし」といって磁器製の絶縁部品が使われている。4 関門連系線の概要が刻まれた石碑。5 新しい電線の断面部。材質はアルミと銅。6 鉄塔自動昇降機。7 海峡を渡る電線を引く張るため、93号と96号鉄塔は通常の鉄塔よりも頑丈なつくり。8 H型の鉄材を使っている96号鉄塔。

の仕事に向かうのだと感じた。

送電のプロは、何十年先も電

気を健全に送り続けるため、今日

40年後か50年後……。

遠い未来の話を、自分の仕事と

して語る山室所長を見つめながら、

これが技術の継承なのかと納得す

る。送電のプロは、何十年先も電

気を健全に送り続けるため、今日

40年後か50年後……。

遠い未来の話を、自分の仕事と

して語る山室所長を見つめながら、

これが技術の継承なのかと納得す

る。送電のプロは、何十年先も電

気を健全に送り続けるため、今日

40年後か50年後……。

遠い未来の話を、自分の仕事と

して語る山室所長を見つめながら、

これが技術の継承なのかと納得す

る。送電のプロは、何十年先も電

気を健全に送り続けるため、今日

40年後か50年後……。

遠い未来の話を、自分の仕事と

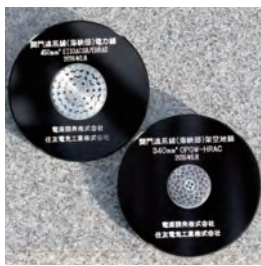
して語る山室所長を見つめながら、

これが技術の継承なのかと納得す

る。送電のプロは、何十年先も電

気を健全に送り続けるため、今日

40年後か50年後……。





1 発電所の全景。 2 工事用の電気を受電する前に開かれたミーティングの様子。 3 タイ語で「イチカワ」と表示したヘルメット。シールで手づくり。 4 新設のガスタービンに初点火の様子。 5 新設のガスタービン。右から吸気し、ガスタービンを回し、発生した熱で蒸気をつくり蒸気タービンを回す。左のタワーは廃熱回収ボイラーと煙突。 6 EGCO 社の社員との交流会。バンコク郊外のゴルフ場で。市川さんは右端。 7 8 バンコクから発電所までのロードサイドでドリアンを初めて食べた市川さん。 9 J-POWER Generation 社の社員旅行。プーケットの空港で。

工事現場に日本人は市川さん一人。あとはほとんどがタイ人のため、市川さんはまず自分を知ってもらうため、タイ語で「イチカワ」という文字のシールをつくり、ヘルメットに貼り付けた。これにより発電所を歩いていると声を掛けられることが増え、食事やスポーツ活動に誘われることも増えるという。「信頼関係が仕事に好循環を与えたいと思います」

一日の遅れも許されない運転開始

今回の工事で最も困難と思われるのが、既存設備と新規設備との運転切り替え。既存設備の運転停止は、EGATとの契約で決まっているため、新設がうまく稼働しないからといって、延長することはできない。この綱渡りのような状況に気を揉む市川さんだが、タイの人たちは焦る様子がないという。個人差はあるものの、タイの人特有の「マイペンライ（大丈夫、気にしないで）」精神で、比較的のんびりした対応になることがあるためだ。

「うまくいかないことがあると急いで原因を究明しないといけないと思い、焦ることもあります。『マイペンライ』精神に救われることもあります」

取材した2023年10月には、設備はほぼ完成。ガスタービンの火入れも無事終了し、これから試運転が始まる。単身赴任中でホテル住まいの市川さん。週末は家族とオンライン電話で話すので、思ったほど淋しくはないと語る。

「運転開始直後はトラブルが起きやすいので、保守管理を徹底し、安定的な運転に努めたいと思います」

タイ国工業団地内のガス発電所をタイトなスケジュールでリプレース Kingdom of Thailand

ラヨン EGCO コジェネレーション発電所 EGCO Cogeneration Power Plant



所在地：タイ国ラヨン県
会社名：EGCO Cogeneration Co., Ltd.
(EGCO80%、J-POWER20%)
出力：7.4 万 kW
発電方式：コンバインドサイクル発電
運転開始：2024 年 1 月（予定）

工業団地内にあるガス火力発電所

ラヨン EGCO コジェネレーション発電所は、J パワーがタイ国で出資している SPP（小規模発電事業者：Small Power Producer）の 1 つだ。同国最大の民間発電事業者である EGCO 社と共同で運営しているが、2024 年 1 月 27 日で既存設備の電力供給契約（PPA）が満了を迎えることから、これに合わせて発電設備を新設する工事が行われている。J パワーの現地法人で、このリプレース（更新）工事を担当する市川憲章さんにお話を聞いた。

「ラヨン EGCO コジェネレーション発電所は、首都バンコクの東南約 200 km にあるラヨン工業団地内にあるガス火力発電所です。ガスと蒸気の 2 つのタービンで発電するガスコンバインドサイクルを採用し、工業団地を中心とした周辺企業に電力と水蒸気を提供し、残りの電力をタイ電力公社（EGAT）に販売しています」

新設の発電所は、同じ敷地内に建設、採水設備や管理事務所などは既存の設備を活用しつつ、ガスタービン 1 基と水蒸気タービン 1 基を新設する。新設発電所の出力は 7・4 万 kW で、EGAT に 3 万 kW、周辺企業に 4・4 万 kW を、さらに工業団地内のパレル工場には蒸気も供給する。

市川さんは 2021 年 10 月にタイ国に赴任、工事開始から管理業務に従事している。

「工事の進捗状況を正確に把握し、工程管理することが主な仕事です。現場でのミーティングがすべてタイ語で行われるため、ミーティング前後に英語の通じる担当者との打ち合わせが欠かせません」



右／「会津のマッターホルン」と呼ばれる蒲生岳と只見川。左／秋にはススキが美しく茂る。

栗崎 夏代子所長（以下 夏代子）私は2023年4月に只見町に赴任してきて、自然の美しさ、凝縮された季節の移り変わりに魅了されています。また、日々暮らす中で自然が生活にとっても近いと感じています。最初に只見町がどんなところか、ご紹介いただけませんか。

吉津 瑞穂さん（以下 瑞穂）只見町は福島県の西南部にあり、新潟県に接した山間部にあります。周囲を1000m級の山々に囲まれ、只見川や伊南川の清らかな流れと、天然のブナ林に代表される豊かな森林資源に恵まれています。人口は約4000人。日本有数の豪雪地帯で、積雪は4m近くになることもあります。この水資源を活用するために、明治以降只見川には多くのダムと発電所が建設されましたが、中でも最大級なのが、Jパワーが只見町につくった田子倉ダム・発電所で、1959年に運転を開始しました。その建設の際に資材を運ぶためにつくられた鉄道が只見線で、その後国鉄に移管され（現在はJR東日本）、

Q 只見町の魅力、好きなところを教えてください。

「日本屈指の秘境線」などと呼ばれ、四季折々の沿線の風景が話題となり、国内外から多くの観光客が来てくれるようになりました。11月になると日が短くなって、もうすぐ雪が降るなど憂鬱になります。年が明けて、3月に雪解けが始まると、春の訪れを感じうれしくなります。5月は新緑が美しく農作業が始まり、連休もある。私は5月が一番よい季節だと思います。夏はうるさいくらい蝉の声がして、ビールも美味しい。秋は紅葉、そして雪の季節が近づいてくる。毎年この繰り返しです。

吉津 なおみさん（以下 なおみ）私も、只見町の魅力は、四季の移り変わりがはつきりしていることだと思います。四季の景観を体感するために只見町に観光に来られる方がたくさんいます。特に秋は、例年10月中旬に紅葉のピークを迎え、多くの観光客が訪れます。只見町ではそれに合わせて、水の郷うまいもんまつりや駅伝大会などを開催しています。2023年のうまいもんまつりは、只見線全線運転再開1周年記念イベント

右／只見線の列車（写真提供：只見町）。左／只見町には「只見線に手を振ろう条例」がある。



特別座談会 只見町で巡り合った女性管理職トーク

魅力いっぱいの只見町にぜひお越しください！



2023年4月より、福島県只見町にある田子倉電力所に

J-POWER初の女性の電力所長が勤務している。

只見町で知り合った只見町役場の女性管理職2人とともに、只見町の魅力や女性活躍について特別座談会を開催した。





只見町ブナセンターでは、只見地域の豊かな自然環境と、住民の伝統的な生活・文化について知ることができる（写真提供：只見町）。

ることがわかってきて、その自然環境を受け入れて、伝統的な生活・文化を守りながら地域の発展を目指すという考えに変わってきたことで「只見町が日本の自然の中心」という思いを込めて、2007年に「自然首都・只見」を宣言しました。只見の自然、主にブナ林が世界遺産級であることを教えてくれたのは植物学者の故河野昭一先生です。河野先生は、只見のブナは遺伝子の多様性があり、残すべき価値のある自然だと教えてくださいました。それまではブナは利用価値が低いということで伐採されてきた時期もあったんです。自然首都の宣言と同時期に「只見町ブナセンター」を発足させました。その目的は只見地域の豊かな自然環境、野生動植物を保護・保全し、次世代に引き継ぐことや、只見の自然環境と深く結びついた住民の伝統的な生活・文化を調査研究し、実態を明らかにすることなどです。こうした様々な活動が実り、2014年には只見町が「只見ユネスコエコパーク」として登録されました。

なおみ 只見町の小学校では、ユネスコエコパークの豊かな自然に親しみながら、その自然と共生してきた先人の暮らしについて学び、只見町

ント（編集注…2011年7月の豪雨により、会津坂下駅—小出駅間が不通に。その後、2022年10月に全線が開通、運転を再開した）と同時開催だったので、大変盛況でした。Jパワーの方々には、いつも催し物に協力いただき、盛り上げていただいています。2023年の駅伝大会には2チームも参加してくださり、本当にありがたかったです。

夏代子 私は、自然と共生してきた人々の生活、その歴史も只見町の魅力だと思っています。

瑞穂 1980年代ごろまでは、今より自然と人との共生が普通にできていました。山から薪を集めて煮炊きや暖を取るのに使い、山菜や栗、クルミ、キノコなどもよく採ったりしましたね。山の多くは集落の共有林で、ルールを決めて利活用しています。山は集落にとって大切な財産ですし、集落の皆のもの、共有財産という意識があります。アケビやマタビの蔓でザルやカゴを編んだり、柴木を畑で支柱に使ったりと山の恵は無駄なく活用していました。今でも山菜採りやキノコ採りに行く人はいます。梅や桃、柿を植えて、梅干しや干し柿は多くの家庭でつくっていますね。

なおみ 山や川が身近な存在で、子どもたちの遊び場でもありましたね。山で桑の実を採って食べたり、山野草で飾りをつくったり、川で水遊びをしていました。

夏代子 只見町には「水の郷」とか「自然首都」とかいろいろな呼び名がありますね。

瑞穂 「水の郷」は、1996年に国土庁が水を活かした町づくりで成果をあげている107地域を「水の郷百選」として認定し、只見町はその一つに選ばれました。町内にある5つのダム・発電所でクリーンエネルギーを供給していることや、ダムの湖面や景観を活かしたまちづくりについて評価されました。

夏代子 水力発電について評価されていたことはとてもうれしいですね。実は2023年9月に、田子倉ダムを含む只見川の9つのダムが「只見川ダム施設群」として「土木学会選奨土木遺産」に認定されました。豪雪地帯の水資源と地形を巧みに利用したダム・電源開発等の河川史や地域資産として貴重な土木遺産群であることが認定理由です。

瑞穂 それはすばらしいことです。只見町のもう一つの呼び方である「自然首都」は、只見の自然に価値があ

の課題から未来を考え、実践していく学習を展開しています。また、中学校では、自分たちで考えたプロジェクトを実際に進めています。人と自然を大切にし、ESD（持続可能な

Q 女性の管理職として思うことは？

夏代子 社内外の方々に「女性初の電力所長」といわれますが、私は土木職（ダムなどの土木構造物の設計や保守管理などを行う職種）で最年長のため、どのような役についても「女性初」となるのかなと思っています。人にはそれぞれ個性があります。性別も個性の一つだと思います。男性も女性も皆が自分の個性・長所を活かし、のびのび働けることが理想で、そのような職場、組織にできればと考え、取り組んでいます。

瑞穂 私自身は、仕事をする上で性別を意識したことはないのですが、周りにはきつとたくさん配慮してくれていたと思います。生意気なことも散々言っていましたし、女性だから許されていた面もあったと思います。私には子どもが3人いるんですけれども、女性には妊娠、出産といったライフイベントがあります。私は、

社会を実現していくことを目指す教育を通して只見町の子どもたちが町を支える人材となつて、只見町を元氣な町にしていってくれたらと思っています。

これらのライフイベントで得た経験は仕事にも活かしていると考えています。視野も広がりましたし、我慢強くなりしました。状況をマイナスに捉えることなく、お互いを認め合い、適材適所で活躍できる場所をつくりたいと思っています。多様性を高める意味でも女性管理職が増えることは望ましいことです。

なおみ 役場に就職した当初は、家庭と仕事を両立し、出産後は育児と仕事もきちんとしなければならぬと思っていますが、子どもが増えていくにつれ、仕事に不安を感じるようになってきました。そんな時、周りの職場の皆さんが率先してサポートしてくれて、育児期を乗り切ることができました。助け合う場面がある組織は、女性も男性も働きやすい職場であると感じました。

課長職になった4月当初は、不安



J-POWER 田子倉電力所 栗崎 夏代子 所長

1995年にJ-POWERへ入社。以来、水力、火力、原子力、風力の電源開発に従事。現場機関では、徳島県阿南市橘湾火力発電所、タイ国ガス火力発電所の建設を担当。2023年4月より現職。

只見町教育委員会 教育次長 吉津 なおみさん

1995年に只見町役場に入職。税務課、企画課、産業観光課、総務課、産業振興課、教育委員会、総務課に勤務。2023年4月より現職。4児の母。

只見町役場 保健福祉課長 保健福祉センター所長 吉津 瑞穂さん

大学卒業後、民間企業に就職。1998年に只見町役場に入職。以来、振興センター、総務企画課、教育委員会、産業振興課、保健福祉課、地域創生課に勤務。只見町朝日診療所事務長を経て、2023年4月より現職。3児の母。



右／2023年のうまいもんまつりの一コマ。J-POWER社員と町の方がいっしょに御神輿を担いだ。左／水力発電について学べる只見展示館。



右／ダム下の広場から見上げる田子倉ダム。左／田子倉ダム上流部。田子倉ダムは重力式コンクリートダムで、高さは145m。

で押しつぶされそうになりながら右往左往していました。が、職場内の風通しを良くするために、積極的に声をかけコミュニケーションをとることを心がけています。女性管理職だからといって、仕事を一人で抱えこまずに、女性からの視点での課題や改善策を周囲や上司に伝えていくことも大切なことだと思っています。

夏代子 私はタイ国に赴任していたことがありますが、タイ国では女性

Q 只見町とJパワーの関係についてどう思っていますか。

瑞穂 Jパワーの田子倉ダムには、子どものころから何度も遊びに行っていて、遊覧船に乗るのも好きでした。それに、只見町の観光の目玉になっている只見線はもともと、Jパワーがつくった鉄道ですから、そういう意味では現在の只見線人気もJパワーのおかげとも言えます。

ただ、私はダムが完成してから生まれたこともあり、建設当時の状況はよくわからないのですが、ダム建設に伴って移転した方や町を出ていった方のことを考えると、かなりの葛藤があっただろうと想像します。当時の多くの方々の思いが、ダムと

も色々な立場で普通に働いていましたし、女性を応援する風土もありました。私自身は若い人を男性も女性も関係なく応援していますが、女性を見かけると「がんばれ!」と心の中でエールを送っている自分もいます。職場に女性が少ないことによる苦勞が色々あるかと思うので。日本も、女性活躍でも男性活躍でもなく、皆が長所を活かして活躍することが当たり前になるとよいと思います。

いう形になり、それがエネルギーを生み出し、日本を支えているという事実は後世に伝えていかなければならないと思っています。現代は、電気がなければ生活ができない環境になりました。その電気を、安定的に供給していただいているので、当時の多くの人たちの判断は間違っていないおかげで、皆が生活できている

なおみ 今現在、Jパワーの職員の皆さんは、全国各地から赴任されています。この只見の豪雪の中でも、昼夜間わずらわしい生活を守るために作業してくださっている職員の方がいるおかげで、皆が生活できている

地域の一員になっていただくことは、只見町にとって非常に有意義なことだと思っています。只見町は、少子高齢化、人口減少、過疎化といった課題が山積みですが、Jパワーの方々と協力しながら関係人口の増大を図っていかれたらと思います。コロナ禍になる前は、町内の居酒屋などでJパワーの人と遭遇することも多くて、一緒に盛り上がりつつ楽しかった思い出もあります。

なおみ ご家族で赴任されてきた方々には、町の子育て支援にも参画していただいています。子どもクラブのスタッフとして活動していただくことで、絆を深めていただき、転出後の現在も町の人との親交がある方もいらっしやいます。2022年の春、県立只見高校野球部が21世紀枠で甲子園の選抜高校野球大会に出場したのですが、只見から異動され、次の赴任地の北海道から甲子園球場までわざわざ応援に来てくださった方がいらして、本当にうれしく思いました。Jパワーは地域に根ざした企業だと感じています。

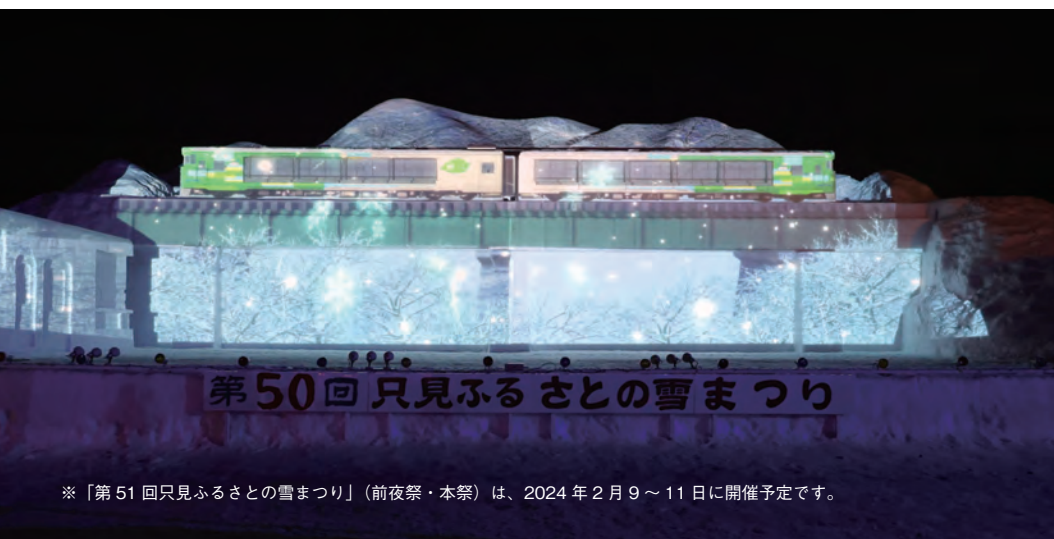
夏代子 そう言っていたらけると本当にうれしいです。本日はありがとうございました。

構成／文／豊岡昭彦 写真／竹見脩吾

只見町の公式ホームページはこちら。



雪まつりで打ち上げられた花火と只見線を模した雪像に投影されたプロジェクションマッピング。J-POWERは毎年入場門の制作を担当している（写真提供：只見町）。



右・中央／民俗「ふる里」に吊るされた干し柿と、収穫した青大豆を枡で量るご主人。左／2月の雪まつりで披露された郷土芸能（小川早乙女踊り）（写真提供：只見町）。



※「第51回只見ふるさとの雪まつり」（前夜祭・本祭）は、2024年2月9～11日に開催予定です。

profile

す え な が ゆ き ほ

美術教師、東京学芸大学個人研究員、アーティスト。東京都出身。武蔵野美術大学造形学部卒業、東京学芸大学大学院教育学研究科（美術教育）修了。同大学個人研究員として美術教育の研究に励む一方、中学・高校の美術教師として教壇に立ってきた。現在、出張授業、ワークショップ、講演活動などに取り組んでいる。著書に『「自分だけの答え」が見つかる 13歳からのアート思考』（2020年、ダイヤモンド社）がある。

P.42 右下／植物の根元にある7色の種は、アーティスト自身が抱く「興味のタネ」。そこから根っこが四方八方に伸びていく様子が「探究の過程」を表している。

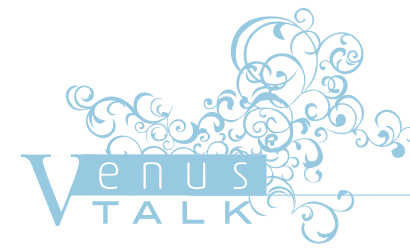
上右／美術館では「気になる作品」を選び、1時間ほどじっくりと鑑賞し、感じたことを書き出す。それが普段とは違うアンテナが働く体験となる。

上中／「アート思考」について解説する末永さん。今後は、幼児教育にも取り組みたいという。

上左／子どもたちには、「自分自身の種（興味）から根を伸ばすことによって、最終的に花が咲く（作品ができる）のだから、『根っこの部分』こそが大事」と教える。

取材・文／ひだい ますみ

写真／ご本人提供



YUKIHO SUENAGA

アート思考が人生を変える！

アート教育者

末永幸歩

近年、教育界だけでなくビジネス界でも注目が集まっている「アート思考」。独自の作品を追求するアーティストのように、自身の視点でものごとを解釈し、新しいものを生み出そうとする考え方をどう身につけ、どう活かすか。その真髄に迫る。

既成概念にとらわれず、新たな角度で身の回りのものごとをとらえなおす「アート思考」。

「アート思考とは、作品そのものではなく、作品がつくられる過程や背景に目を向ける考え方です。アーティストがどのように世界と向き合っているか、どんな考えで制作しているのかに着目します」

この「アート思考」に力点を置いた講義やワークショップを各地で展開しているのが、フリーランスの美術教師で、アーティストとしても活躍している末永幸歩さん。

もともと、公立中学校の美術教員だった末永さん。着任した当時、美術の授業は、自分の中学生時代とあまり変わらず、完成度を高めるための技術的な指導や完成した作品の美しさが重視されていた。「私自身もそういう授業をしていました。でも、そんな現状に疑問を持ったのです」

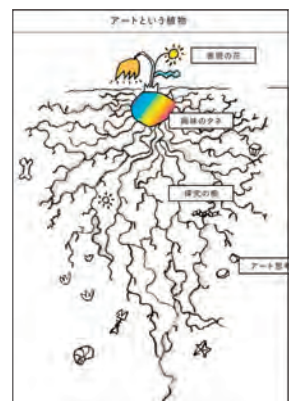
アートの根源を見つめる視点を重視し、新しいものの見方や多様性に触れる末永さんの授業は、子どもたちを魅了した。手ごたえを

感じた末永さんは、大人にも「アート思考」を知り活用してほしいと、講演活動やワークショップに力を注ぐ。

「教育界だけでなく、様々な業種の企業から講演依頼があります。これまで大きな実績を残している企業であっても、社会が急速に変化している時代だけに、アート思考の柔軟な視点や発想力、表現力に注目されているようです」

これらは、どうしたら身につくのか。末永さんは自分の考え方を「実は、そうではないのでは？」と疑ってみることを勧める。それがきっかけとなり、そこから新しい「気づき」が生まれるからだ。

ビジネスに新風をもたらす「アート思考」。きつと生き方のヒントも見つかるに違いない。



伝統の帆前掛け文化を 未来へ

米屋や酒屋の従業員が腰に締める帆前掛けは、
愛知県豊橋市の特産品。
高度成長期には100軒以上の工場があったが
平成には数軒を残すのみに。
この帆前掛けを復活させたのが
有限会社エニシングだ。
豊橋市にある工場を訪ねた。

消えかかっていた

帆前掛け文化を守りたい

有限会社エニシングは、日本伝統の「帆前掛け」の専門メーカーだ。本社は東京都港区にあるが、愛知県豊橋市に2019年に建設された「前掛けファクトリー」を訪ね、代表取締役社長の西村和弘さんにお話を聞いた。

前掛けのうち、太く丈夫な糸でつくった厚手の布を使用したものを帆前掛けというが、西村さんが帆前掛けに出合ったのは、創業5年目、2004年のこと。「日本の隠れた魅力の世界に発信したい」という思いから起業した漢字Tシャツの企画販売会社で、品揃えとして帆前掛けを扱ったことがきっかけだった。

帆前掛けは、米屋や酒屋など商店の人たちが腰に巻く、日本伝統の仕事着だ。その起源は15世紀にさかのぼると言われ、厚手の布によって衣類の破れやけがを防止することから重宝されてきた。西村さんによると、帆前掛けを腰に巻くことにより、骨盤が締めまり、背筋が伸びるので、働く人たちの腰を守る効果もあるという。米穀店などでは、帆前掛けを締めないと米袋が持てないという人もいるほどだ。

当時は、東京・日本橋の間屋で既製品の帆前掛けを購入し、オリジナルの絵柄をプリントしたり、場合によっては特注品を小ロットで注文したりして販売していた。

2005年のある日、200枚の大口の注文が入り、いつもの問屋に無地の既製品を仕

入れにいくと、そんな大口には対応できないと断られた。産地を聞いても教えてくれない。自分で探すしかないと半年間探し続け、京都で染め物をしている知人から「帆前掛けは豊橋でつくっているらしい」という情報を得る。西村さんは教えてもらった番号に電話し、職人を訪ねていった。

「私の親世代の職人さんたちは、久しぶりに若いのが来たというので歓迎してくれたのですが、親心から『帆前掛けなんてやめたほうがいい』と言われました」

注文は年々少なくなるし、自分たちも年だからもうすぐ引退する。だから帆前掛けを売ることなど考えないほうがいいというのだ。

豊橋では、昭和の最盛期には100軒以上の帆前掛け工場があったが、すでに数軒しか残っていなかった。最後に行った染めの職人のところでは「東京にはおもしろい注文をするヤツがいるから、型紙を見してみるか」と言われ、見せてもらった型紙は、すべて西村さんが注文した型紙だった。

消えかかっている帆前掛け文化を守らなけ



有限会社エニシング
代表取締役社長 西村和弘さん



右／写真右は映画「007／ノー・タイム・トゥ・ダイ」に登場したエニシングオリジナル、中央、左はそれぞれスズキ、トヨタの特注品。スズキとトヨタはともに織機メーカーとして豊橋に近い静岡県浜松市や湖西市で創業。その織機がエニシングで使われている。
左上／専用ハンガーに吊るされた各種帆前掛け。
左下／米袋を使ったパッケージもおしゃれ。





4. タテ糸がセットされた織機。
5. タテ糸の間隔を決める作業。間隔の違いで、布の硬さが決まる。
6. 帆前掛けの布で作成したバッグ類なども販売している。
7. インテリアなどへの商品展開も模索中。
8. 2009年にニューヨークで展示会を行った西村さん（左から3人目）と3人の職人（写真:エニシング提供）。



1. 1920～30年代につくられた10台（トヨタ製4台、スズキ製2台、遠州製4台）の織機が並ぶ工場。9台が1個のモーターで動いている。
2. タテ糸をセットする整経の工程。
3. ココ糸を通すためのシャトル。タテ糸が上下に交差する間を高速で左右に行き来する。シャトルは1丁、2丁……と数える。

ればならない……。職人との出会いを通じ、東京に帰る新幹線の中で、西村さんは帆前掛け一本で勝負することを決意する。

ニューヨークでの展示会で 職人たちの目の色が変わった

エニシングは、Tシャツ販売から帆前掛け専門店に転身したが、最初から好調だったわけではない。当初は月に10枚程度の売り上げだったが、2007年、テレビの情報番組でエニシングの帆前掛けが取り上げられると、1日で200万円ほど売り上げ、さらに1カ月後にも別のテレビ番組で取り上げられ、100万円ほど売れた。西村さんはうれしさよりも居心地の悪さを感じたという。

「このお金は『あぶく銭』ですよ。そんなもので喜んではいけない。これを元に何かやらなければいけない、何かやるなら一番怖いことに使おうと思いました」

そこで西村さんはニューヨークに帆前掛けを売り込みに行くことにした。

「日本の文化を世界に広めることを目標に起業したのに、この7年間、日々の稼ぎに翻弄され、何もできていなかった。今こそ初心に返ろうと思いました」

ニューヨークの人気日本食レストランに飛び込み営業を行った。その時に知り合った人の紹介で、西村さんは2009年にも商談のために渡米。その際に、日系の大手書店を訪ねた西村さん。支配人室に通され、「この

いた3人の帆前掛け職人の反応だった。

『西村君、これまで君を、少ないロットしか注文しない面倒くさい人だと思っていたけれど、君のやりたいことがよくわかった。これからは協力するよ』と言ってくれました」

製造するだけでなく 情報発信する工場をつくる

職人たちは協力的になってくれたが、だからといって売り上げがすぐに上がるわけではない。テレビでの紹介で、認知度が高まったこともあり、西村さんの地道な営業活動が効果を上げ始める。全国的な雑貨専門店での取り扱いが始まり、月に100枚以上売れるようになっていた。さらに企業とのコラボ、アウトドアブーム、外国人観光客の増加、プロ野球球団の応援グッズ採用などにより販売数が伸び、エニシングは月に1000万〜2000万円を売るまでになっていた。

だが、職人たちの高齢化を防ぐことはできない。2013年、織機を譲ってくれるという織りの職人から「そろそろ引退したいから準備してくれ」と告げられた。そこでまず、職人になりたい人を募集、埼玉県製の織物メーカーに見習いとして受け入れてもらい、基礎を身に付けた上で、豊橋の職人のもとで修業してもらうことにした。結局、5年間で4人の職人を育てることができた。

一方、西村さんは工場の建設にも乗り出す。機械を譲ってくれる職人の工場と同じスぺー

ギャラリーで展示会をやりませんか」と逆に提案された。しかも料金は無料でいいという。「日本文化を広める活動には無料で場所を提供しているというんです」

展示会は2カ月後の9月。西村さんは帰国するとすぐに豊橋の職人たちに相談に行った。すると、職人たちは自分たちもニューヨークに行きたいという。テーマを「前掛けの歴史」に決め、帆前掛けを展示するだけでなく、歴史も紹介。さらに、通訳を付けて3人の職人に会場で話してもらうことになった。

2009年9月にニューヨークの書店で行われた帆前掛けの展示会。職人による週末のトークショーは盛況に終わり、持っていた40枚の帆前掛けは完売した。だが、何よりも西村さんを喜ばせたのは、それを現場で見て



前掛けファクトリーには、工場とショールームの2つの建屋がある。

スなら数千円で済むはずだったが、「自分がやるべきことは単なる製造ではない」と気がついたという。工場は「人が集まって何かが生まれる」をコンセプトとし、技術を継承し、情報を発信していく、ものづくりのループを生み出すような場所であればいけない。そのためにもっと広いスペースが必要だった。結局、西村さんは、1億円以上の借金をして理想の工場をつくることを決断した。

先輩職人から譲り受けた織機は、100年以上前につくられた「シャトル織機」と呼ばれる機械。帆前掛け用の柔らかく丈夫な布はこの機械でしかつくれない。そんな機械を設置して新工場を建てたことが地元の新コースで報じられると、予想だにしないことが起こった。引退していた元織物職人たちが次々に西村さんの工場を訪ねてくるようになったのだ。そして、孫のような若い職人にシャトル織機の使い方やコツを伝授してくれ、織機の部品を提供してくれる元職人もいた。

今や年間10万枚を製造、60カ国に帆前掛けを出荷するようになったエニシング。海外進出の第一歩として、フランスに拠点を設置。「帆前掛けの文化を世界に広げる」という西村さんの目標は着実に歩みを進めている。

有限会社エニシング

2000年創業の帆前掛け専門メーカー。約100年前の織機10台を譲り受け、年間10万枚の帆前掛けを生産販売。世界60カ国に出荷している。社員数7名。
<https://www.anything.ne.jp/>

フィリピン国での「分散型複合再生可能エネルギー導入によるGHG排出削減調査および事業性調査」が経済産業省事業に採択

J-POWERが提案した「フィリピン国養鶏業地域協同組合における分散型複合再生可能エネルギー導入によるGHG排出削減調査および事業性調査」が、経済産業省事業「令和5年度二国間クレジット取得等のためのインフラ整備調査事業（JCM※実現可能性調査）」に採択されました。

本調査事業では、フィリピン国バターン州の養鶏場への屋上太陽光発電システム、鶏糞を利用した発電システム、および蓄電池の導入による安定的なCO₂フリー電力供給により、火力発電が多く

を占める系統からの購入電力を代替し、CO₂排出削減を達成するための事業実現に向けた調査を行います。本調査事業の成果を同国内の他産業、さらには他国へと展開することで、環境負荷低減への貢献が期待されます。

JCMは我が国の優れた低炭素技術などを途上国で実施することで実現された温室効果ガス排出削減量を評価し、我が国の削減目標の達成に活用するものです。

※ Joint Crediting Mechanism（二国間クレジット制度）



山間部の水力発電所における高速・大容量通信の実証試験を開始

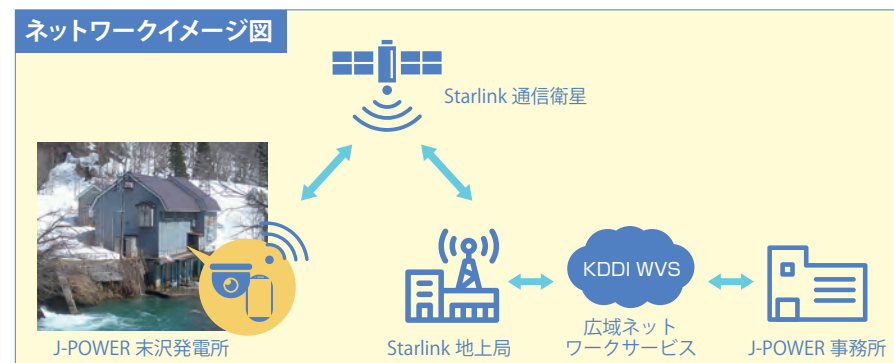
J-POWERとKDDI株式会社は、J-POWERテレコミュニケーションサービス株式会社と合同で、2023年10月3日よりKDDIが法人・自治体向けに提供する衛星ブロードバンド「Starlink Business」（以下、Starlink）と広域ネットワークサービス「KDDI Wide Area Virtual Switch」を導入し、保守高度化による電力の安定供給に向け、山間部での高速・大容量ネットワーク通信の実証試験を末沢発電所（新潟県魚沼市）のリパワリング工事（水車・発電機等主要設備の一括更新工事）にて開始しました。

J-POWERの水力発電所は山間部に多く位置しており、光ファイバーの引き込みが困難かつ携帯電話の電波の届かない場所における高速・大容量ネットワークの構築が課題となっています。

実証試験では、社内ネットワーク上のITシステムやクラウドサービス、ネットワークカメラによる遠隔監視などの大容量通信へのStarlinkの適用、山間部での

様々な天候下における通信状況、長期間稼働した場合の影響などを調査します。特に末沢発電所は豪雪地帯のため、冬季にかけて試験を実施することで降雪・積雪時の通信状況を確認します。

なお、実証試験後は、リパワリング工事の水車発電機などの据え付けが開始されるため、ネットワークカメラでの工事状況の共有や運転開始後のプラントデータの遠隔サーバへの伝送、巡視点検での後方支援にStarlinkによる通信インフラを活用する計画です。



こじま なお
東京都出身。2004年、角川短歌賞受賞。2007年、第一歌集『乱反射』により現代短歌新人賞、駿河梅花文学賞受賞。2020年4月、第三歌集『展開図』刊行。居合道三段。

放映1000回

「音のソノリティ」を詠む

—— 鬼首の噴気 ——
（宮城県大崎市）

歌人 小島 なお



鬼首温泉郷にある地獄谷遊歩道周辺では、そこかしこでお湯が湧き出している。

写真：河口信雄／アフロ

コボコボコボコボ。パオー。岩肌から湯の湧き出す音に混じって、ときに勢いよく噴きあがる間欠泉の音が聞こえる。

宮城県大崎市鳴子温泉郷。鬼首と呼ばれるこの一帯では、地下のマグマによって熱せられた100℃近い湯が川沿いを中心に無数に湧き出している。間欠泉は約15分毎に高さ15〜20mも噴出する。

鬼首の地名は、坂上田村麻呂が789年（延暦8年）の蝦夷征討で大武丸を斬首した際に、その首が飛んできた地という伝説に由来する。大武丸は鬼あるいは蝦夷の首領だったという。

地下深くからとめどなく湧き出す湯の熱を静かに取り囲む木々。この木々は長い歳月のなかで大武丸の最期を見ただろうか。無念の声を聞いただろうか。盛りあがる湯の塊は、鬼の首が今まさにそこから飛びだそうとしているかのような迫力がある。

※「音のソノリティ」第1000回放映（鬼首の噴気）を観て読んでいただいたものです。Jパワリングループは、宮城県で鬼首地熱発電所を運営しています。

斬られてもまた噴きあがる湯の首を声を持たない木々が囲めり

世界でたった一つの音
音のソノリティ

J-POWERは、首都圏などで放送中のミニ枠テレビ番組「音のソノリティ〜世界でたった一つの音〜」を提供しています。「ソノリティ」とは、フランス語の音楽用語で「鳴り響き」の意味。日本の自然風景から、その場所できくことのできない音を紹介しています。

日本テレビ系列
毎週日曜日 20:54〜など
BS日テレ
毎週水曜日 22:27〜（再放送）



新苫前ウィンビラ発電所営業運転開始

J-POWERの100%出資子会社である株式会社ジェイウインドが設備更新工事を進めてきた新苫前ウィンビラ発電所が竣工し、2023年10月20日に営業運転を開始しました。

苫前ウィンビラ発電所（既設）は、2000年12月にJ-POWERグループで初めて運転開始した風力発電設備です。今般、19基の風車（単機出力1,650kWおよび1,500kW）から国内最大級の風車8基（単機出力4,300kW）への更新工事を終え、「新苫前ウィンビラ発電所」として運転を開始しました。今回の設備更新工事において、大型機器導入に伴う性能向上をはかり、当地における風資源を最大限有効活用します。

新苫前ウィンビラ発電所の営業運転開始により、J-POWERが実施する国内風力発電事業は29地点（運転中21地点、更新工事中2地点、建設中4地点、設備更新計画中2地点）、総出力は766,192kW（設備更新計画中2地点を含む）となり、北海道9地点の出力合計は210,682kWとなりました（2023年10月20日時点）。



新苫前ウィンビラ発電所

発電所概要	
発電所名	新苫前ウィンビラ発電所
所在地	北海道苫前郡苫前町
出力	30,600kW（シーメンスガメサ製 定格出力4,300kW×8基）
工程	2020年 8月 着工 2023年10月 営業運転開始
事業会社概要	
会社名	株式会社ジェイウインド
本店所在地	東京都中央区
資本金	1億円 （J-POWER100%出資子会社）
代表取締役	斉藤 文彦 （J-POWER 再生可能エネルギー 本部 陸上風力事業部長）

松島火力発電所の今後

～GENESIS松島計画の推進とCO₂削減目標に向けた既存設備の更新～

J-POWERは、GENESIS松島計画（CO₂フリー水素発電を目指した設備更新計画）を引き続き推進するため、2024年度末をもって松島火力発電所の既存2基を休廃止することを決定しました。

J-POWERグループは「J-POWER “BLUE MISSION 2050”」において、2050年のカーボンニュートラルと水素社会の実現に向け、中間目標として2025年度のCO₂排出量を3,960万t以下※1とすることを目指しています。そのため、再生可能エネルギーの重点的な開発と原子力の着実な推進に加えて、CO₂フリー水素発電を目指したGENESIS松島計画を推進してきました。

今般、カーボンニュートラル実現に向けた取り組みの一環として、2024年度末

をもって松島火力発電所の稼働を停止し、1号機は廃止、2号機はGENESIS松島計画に向けて休止することとしました。1号機の一部設備や敷地は、引き続きGENESIS計画や、将来のカーボンニュートラル施策に向けて活用していく予定です。なお、休廃止に伴う2024年3月期の業績への影響は、軽微である見通しです。

また、GENESIS松島計画は、2026年着工、2028年度運転開始を目指します。将来的にはバイオマス・アンモニア燃料の導入、CCUS※2の実現なども含めて、国内におけるカーボンフリー火力の先進地を目指し、今後も松島の地で事業を継続していきます。

休廃止設備の概要		
発電所名	松島火力発電所	
所在地	長崎県西海市大瀬戸町	
号機	1号機	2号機
出力	50万kW	50万kW
燃料	石炭	石炭
運転開始	1981年1月	1981年6月
GENESIS松島計画の概要		
所在地	長崎県西海市大瀬戸町	
発電出力	約50万kW	
工事開始	2026年（見込み）	
運転開始	2028年度（見込み）	

※1 2013年度実績比920万t・19%削減
※2 Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage
（CO₂の回収・有効利用・貯留）

長山発電所リパワリング工事開始

J-POWERは、2023年10月31日より、長山発電所（高知県安芸郡北川村）のリパワリング工事を開始しました。

長山発電所は、1960年の運転開始から60年以上が経過し、機器の高経年化が進んでいることから、水車や発電機などの主要設備を一括で更新し、設備の信頼度向上と合理化・省力化を図ります。

最新設計による高効率な水車や発電

機を採用することと併せ、将来的には地域の皆様のご了解の下、最大使用水量を増加し、発電出力を37,000kWから39,500kWに2,500kW増加させる計画です。

今後も地域の皆様、および関係各所のご理解とご協力をいただきながら、環境保全に十分に配慮し、安全第一で工事を進めていきます。



主要スケジュール	
2023年10月31日	発電所リパワリング工事 開始
2024年度	2号機 営業運転開始（予定）
2025年度	1号機 営業運転開始（予定）
発電所概要（既設）	
所在地	高知県安芸郡北川村
出力	37,000kW （1号機と2号機の合計出力）
最大使用水量	40m ³ /秒
ダム	平鍋ダム （堤長124m、高さ38m）
運転開始	1960年7月



発電所外観



発電所内部（発電設備）

読者プレゼント

本誌P.36の「特別座談会 只見町で巡り合った女性管理職トーク」を開催した福島県只見町の魅力が詰まった「只見満喫セット」を抽選で3名様にプレゼントします。セット内容は、只見奥会津ラーメンやトマトジュース、ドレッシングなどを予定しています。

応募方法

①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④本誌の印象的だったコーナーやご感想を明記の上、2024年3月8日（金）までに郵便はがき（当日消印有効）で下記住所「J-POWER『グローバルエッジ』編集室 読者プレゼント係」宛てに、または下記メールアドレス宛てにご応募ください。なお、当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。個人情報は、プレゼントの発送のためにのみ使用させていただきます。



※ 内容は、変更になる場合があります。ご了承ください。



2024年1月15日発行（非売品）
発行：電源開発株式会社
〒104-8165 東京都中央区銀座6-15-1 TEL:03-3546-2211（代表）
URL: <https://www.jpowers.co.jp/> e-mail: globaledge@jpowers.co.jp
編集・発行人：広報室長 下田 総一郎

